

Gentran:Server[®] for Windows[®]

コミュニケーションズ ユーザーガイド

バージョン 5.0

Sterling Commerce
An IBM Company

著作権に関する表示 ¶

Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004
Sterling Commerce, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED

スターリング コマース ソフトウェア

営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンサの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンサの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われぬものとします。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

目次

本書について

- ▶ はじめに vi
- ▶ 本書の内容 vii
- ▶ オンライン ヘルプ viii
- ▶ サポート情報 ix

コミュニケーションズの概要

- ▶ 概要 1-2
- ▶ メッセージ 1-5

コミュニケーションズの構成

概要 2-2

- ▶ はじめに 2-2
- ▶ メールボックスの [サーバー マネージャ] 2-3
- ▶ ファイル システム ゲートウェイ プロパティ 2-7
- ▶ ファイル システム ゲートウェイ プロパティ 2-8
- ▶ サーバーのプロパティ 2-14
- ▶ メールボックス プロパティ 2-23
- ▶ [インポート / エクスポート] ダイアログ ボックス 2-28

メールボックス サーバー サービス 2-29

- ▶ サービスの依存関係の構成方法 2-29
- ▶ メールボックス サービスの開始方法 2-32
- ▶ メールボックス サービスの停止方法 2-33

ゲートウェイの構成手順 2-34

- ▶ 設定処理 2-34
- ▶ ファイル システム ゲートウェイの構成方法 2-36
- ▶ ファイル システム メールボックスの作成方法 2-38
- ▶ メールボックス プロパティの修正方法 2-42
- ▶ メールボックスのエクスポート方法 2-43
- ▶ メールボックスのインポート方法 2-44

リストの操作

- ▶ 概要 3-2
- ▶ 配布先リストの作成方法 3-3
- ▶ 配布先リストの削除方法 3-5
- ▶ 受信者リストの作成方法 3-6

配送ルール の 操作

概要	4-2
▶ はじめに	4-2
▶ 配送ルール	4-3
▶ デリバリエージェント	4-6
EXE デリバリエージェント	4-7
▶ 概要	4-7
▶ VATPRINT ユーティリティ	4-10
▶ XPROCESS ユーティリティ	4-12
Xprocess DLL エージェント	4-19
▶ 概要	4-19
プロパティ	4-25
▶ 配送ルールのプロパティ	4-25
手順	4-28
▶ 配送ルールの使用方法	4-28
▶ 処理の順序の設定方法	4-31
▶ 配送ルールの編集方法	4-32
▶ 配送ルールの削除方法	4-33

メッセージ の 操作

概要	5-2
▶ はじめに	5-2
メッセージのフィルタ操作	5-3
▶ 概要	5-3
プロパティ	5-5
▶ システムブラウザフィルタ	5-5
▶ システムブラウザ	5-7
▶ [フィルタ]ダイアログボックス	5-9
▶ フィルタブラウザ	5-11
手順	5-13
▶ メッセージの表示方法	5-13
▶ メッセージの添付の表示方法	5-15
▶ 全メールボックスのフィルタプロパティの設定方法	5-17
▶ 特定メールボックスのフィルタプロパティの設定方法	5-18
▶ メールボックスメッセージの削除方法	5-19
▶ 削除したメッセージの復元方法	5-20

メールボックス サーバー の メッセージ

▶ 概要	6-2
▶ エラーメッセージの処理	6-3
▶ 双方向メッセージ	6-5

メッセージの追跡

概要	7-2
▶ はじめに	7-2
▶ Gentran:Server コミュニケーションズ マネージャ	7-3
▶ メールボックス サーバーでのオーディット通知の使用	7-8
手順	7-9
▶ アウトバウンド メッセージの追跡方法	7-9
▶ インバウンド メッセージの追跡方法	7-13
ステータス情報	7-18
▶ メッセージの状態	7-18
▶ 受信者側の状態	7-20

用語解説

本書について

目次

▶ はじめに	vi
▶ 本書の内容	vii
▶ オンライン ヘルプ	viii
▶ サポート情報	ix

はじめに

概要

このマニュアルでは、次の作業を行う際に必要な手順について説明します。

- ▶ **Gentran:Server for Windows[®]** とトレーディング パートナーとの間のコミュニケーションズの設定
- ▶ トレーディング パートナー用のメールボックスの作成
- ▶ **Gentran:Server** コミュニケーションズおよびファイル システム ゲートウェイの構成

本書の対象読者

本書は、次の作業の担当者を対象に書かれています。

- ▶ **Gentran:Server** のメールボックスおよびゲートウェイの設定
- ▶ **Gentran:Server** コミュニケーションズの管理

必要な知識

本ソフトウェアを使用するには、**Microsoft[®]** オペレーティング システム および コミュニケーションズ プロトコルについての知識が必要になります。

本書の内容

はじめに

本書は、Gentran:Server のコミュニケーションズの構成で必要な作業別に分かれています。

章の構成

このマニュアルの章構成は次のとおりです。各章の概要を説明します。

- ▶ 「[本書について](#)」では、このマニュアルの内容および構成について説明します。
- ▶ 「[コミュニケーションズの概要](#)」では、Gentran:Server for Windows コミュニケーションズ サブシステムの概要について説明します。付加価値ネットワーク (Value Added Network: VAN) および一部の基本的なコミュニケーションズプロトコルについても、この章で説明します。
- ▶ 「[コミュニケーションズの構成](#)」では、Gentran:Server for Windows でコミュニケーションズを構成する処理について説明します。Gentran:Server ファイルシステム ゲートウェイおよび関連のメールボックスを構成する手順についても、この章で説明します。
- ▶ 「[リストの操作](#)」では、配布先リストおよび受信者リストを作成する手順について説明します。
- ▶ 「[配送ルール](#)の操作」では、メールボックスにデリバリー エージェントを割り当てる手順について説明します。
- ▶ 「[メッセージ](#)の操作」では、共通メールボックス機能の実行方法など、メールボックス サーバーのフィルタ機能について説明します。
- ▶ 「[メールボックス サーバー](#)のメッセージ」では、メールボックス サーバー コミュニケーションズの操作時に受け取る双方向メッセージについて説明します。
- ▶ 「[メッセージ](#)の追跡」では、Gentran:Server からメールボックス サーバーを経由してトレーディング パートナーまでメッセージを追跡する方法、およびトレーディング パートナーからメールボックス サーバーを経由して Gentran:Server までメッセージを追跡する方法について説明します。
- ▶ 「[用語](#)解説」では、Gentran:Server およびメールボックス サーバーに共通する用語の意味を定義します。

オンライン ヘルプ

はじめに

本書の内容の多くは、オンライン ヘルプ システムにも記載されています。本書に記載のダイアログ ボックス各項目の定義、処理の詳細情報、および処理手順の説明は、オンライン ヘルプにも含まれています。

サポート情報

はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

メモ

Gentran:Server のカスタマ サポートは、スターリング コマース社以外の製品 (SQL Server、Oracle など) のサポートは行っていません。ただし、他社の製品を Gentran:Server と併用できるように構成するサポートは提供しています。

電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備 カード』を参照してください。

サポートに連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、以下の事項についてご協力をお願い致します。

- まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)。
システム構成	Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービス パック)、Gentran のプライマリシステム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティング システムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベース バージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。 ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。 (次のページへ続く)

情報	説明
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録、推定される問題の発生回数と問題を再生することができるかどうかを報告してください。

スターリング コマース社 Support Web Site (英語) へのアクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する以下の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand ケースの作成方法
- ▶ Support on Demand ケースのステータスの確認方法
- ▶ Support on Demand ケースへの情報追加の方法

Customer Support Web Site は常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

参照

Customer Support World Wide Web Site へのアクセス方法に関する情報については、『インストール準備 カード』を参照してください。

マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows ドキュメント セットがすべて含まれています。随時このライブラリから製品マニュアルを PDF フォーマットでダウンロードできます。

コミュニケーションズの概要

目次

▶ 概要	2
▶ メッセージ	5

概要

本章の内容

本章では、メールボックス サーバー システムのコンポーネントの概要について説明します。

メールボックス サーバー システム とは

メールボックス サーバー システムは、トレーディング パート ナーとのメッセージ転送に使用するコミュニケーションズ システムです。このシステムでは、さまざまなコミュニケーションズ プロト コルを使用してメッセージを転送できます。

メールボックス サーバーの コンポーネント

メールボックス サーバー システムは、次のコンポーネントから構成されています。

- ▶ メールボックス
- ▶ 配布先リスト
- ▶ デリバリエージェント
- ▶ ゲートウェイ

メールボックス

メールボックスには、メール受信者間で転送されるメッセージが格納されます。手紙を入れる郵便ポストのように、メッセージは宛先のアドレスへ転送されるまでメールボックスの中に保管されます。

メールボックス サーバーでは、次の 2 種類のメールボックスを使用します。

- ▶ 非ゲートウェイ メールボックス
- ▶ ゲートウェイ メールボックス

非ゲートウェイ メールボックス

Gentran:Server をインストールすると、既定では、Gentran アプリケーション メールボックスという非ゲートウェイ メールボックスが作成されます。このメールボックスは、Gentran:Server for Windows とトレーディング パートナーとの間で転送されるメッセージを、メールボックス サーバーに保管しておくために使用します。

ゲートウェイ メールボックス

ゲートウェイ メールボックスは、ユーザーが作成します。作成されたゲートウェイ メールボックスは、ゲートウェイと関連付けられます。各ゲートウェイ メールボックスに定義するプロパティによって、トレーディング パートナーへのメッセージの転送方法が決定されます。

(次のページへ続く)

コンテンツ タイプ とサブタイプ

コンテンツ タイプとサブタイプの値は、伝送する情報のインターネット メディア タイプを示すために使用します。コンテンツ タイプにより、データの表示に使用する機構が決まります。

[システム構成] ダイアログ ボックスの [メールボックス] タブで値を選択することにより、実行するアクションをデータの種類ごとに変えることができます。

例

Application/EDI は、タイプがアプリケーション プログラムで、サブタイプが EDI (電子データ交換データ) であることを示します。Gentran:Server では、コンテンツ タイプおよびサブタイプが Application/EDI であるメッセージを受信すると、そのメッセージに対して GDW_Process_MBFile コマンドが実行されます。

メモ

未定義のコンテンツ タイプが含まれるメッセージは、そのコンテンツ タイプが定義されるまで Gentran アプリケーション メールボックスに保管されます。

参照

[システム構成] ダイアログ ボックスの [メールボックス] タブについては、『Gentran:Server 管理 ガイド』を参照してください。

指定可能な コンテンツ タイプ

Gentran:Server では、次のコンテンツ タイプとサブタイプの組み合わせを指定できるように既定されています。

- ▶ Application/EDI
- ▶ Application/Import
- ▶ Application/Document-EDI

配布先リスト

配布先リストは、メールボックス サーバーのメールボックス リストです。メッセージに各個人のアドレスを指定する代わりに、複数のメールボックスを 1 つの配布先リストにまとめることができます。ゲートウェイ メールボックスを構成する際には、配布先リストを受信者として定義できます。

例

たとえば、"EDI 管理者" というメーリング リストにメッセージを送信するようにゲートウェイ メールボックスを設定できます。この配布先リストには、社内の全 EDI 管理者の個別メールボックスが含まれます。

(次のページへ続く)

デリバリ エージェント

デリバリ エージェントによって、送信および受信するメッセージ上で外部プログラムが実行されます。メールボックス サーバーをインストールすると、"EXE エージェント" および "Xprocess DLL エージェント" というデリバリ エージェントもインストールされます。

例

たとえば、トレーディング パートナー TREX から受信したメッセージに対して、Xprocess ユーティリティを実行するとします。この場合、メールボックス サーバーによってメッセージが TREX メールボックスから Gentrans アプリケーション メールボックスに転送されるたびに Xprocess が実行されるように、配送ルールのプロパティを定義します。

参照

配送ルールを定義および構成する方法についての詳細は、このマニュアルの「[配送ルールの操作](#)」を参照してください。

ゲートウェイ

ゲートウェイは、2 者間のメッセージの伝送を制御するソフトウェア コンポーネントです。ゲートウェイは、送信者と受信者の間のメッセージを、適切なプロトコルを使って転送する役割を果たします。ゲートウェイは、通常の郵便にたとえると、投函された手紙を宛先へ届ける郵便配達人に相当します。配達人は、手紙を配達する前に、それぞれの手紙に住所が記載されていて適切な切手が貼られていることを確認します。また、配達人は、適切なプロトコルに従って手紙を配送します。(優先郵便、第 1 種郵便、料金別納郵便など)

メッセージの転送に使用されるゲートウェイのプロパティは、ユーザーによって定義される必要があります。

ファイル システム ゲートウェイ

Gentrans:Server をインストールすると、ファイル システム ゲートウェイが作成されます。このゲートウェイによって、メッセージがファイル システム上の指定されたフォルダに移動します。これにより、別のコミュニケーションズ システムを使用してメッセージを転送できるようになります。また、ファイル システム ゲートウェイを使用して、Gentrans:Server でメッセージが正しく処理されているかをテストすることもできます。

オプション ゲートウェイ

Gentrans:Server には、ファイル システム ゲートウェイに加え、さまざまなオプション ゲートウェイが用意されています。オプション ゲートウェイは、Gentrans:Server のインストールとは別にインストールします。詳細は、各ゲートウェイの構成ガイドを参照してください。

メッセージ

はじめに

メールボックス サーバーの目的は、メッセージを転送することです。このトピックでは、メッセージとメッセージの添付について説明します。

メッセージ

メッセージとは、E メール メッセージ、音声メール、または簡単なテキストメッセージなどによる情報全般を指す用語です。メールボックス サーバーで転送されるメッセージは、ビジネス ドキュメントのデータなどを含む特殊なメッセージです。各メッセージには、次のプロパティが設定されています。

- ▶ [メッセージ ID]— 各メッセージを一意に識別するための ID です。
- ▶ [Src ID]— メッセージを送信したメールボックスに割り当てられているメッセージ ID のリストです。
- ▶ [件名]— メッセージの内容の概要を示します。
- ▶ [コンテンツ タイプ] と [サブタイプ]— メッセージまたは添付に含まれる情報の種類を示します。
- ▶ [送信元]— 作成者を示します。
- ▶ [受信者]— 受信者を示します。
- ▶ [状態]— メールボックス サーバーにおけるメッセージと添付の処理の進捗状況を示します。
- ▶ [メッセージ ボディ]— メッセージの内容が収められます。通常は、プレーンテキスト形式で表示されます。
- ▶ [添付]— 追加のテキストやバイナリ データ エレメント (ビジネス ドキュメントに含まれるデータなど) が収められます。

添付

メールボックス サーバーにおける添付とは、トレーディング パートナーと交換するビジネス ドキュメントのことです。このドキュメントには、業務システムで生成された EDI (電子データ交換) 情報を含めることもできます。メールボックス サーバーでは、このような情報をメッセージへの添付として格納します。

メッセージの格納場所

メールボックス サーバーのメッセージは、メールボックスに格納されます。これらのメッセージには、アドレス指定情報 (メッセージ ID、受信者、送信者、件名、およびコンテンツ タイプ) が含まれています。各メッセージには、一意の識別番号が割り当てられます。また、添付の格納場所を示すポイントも含まれます。

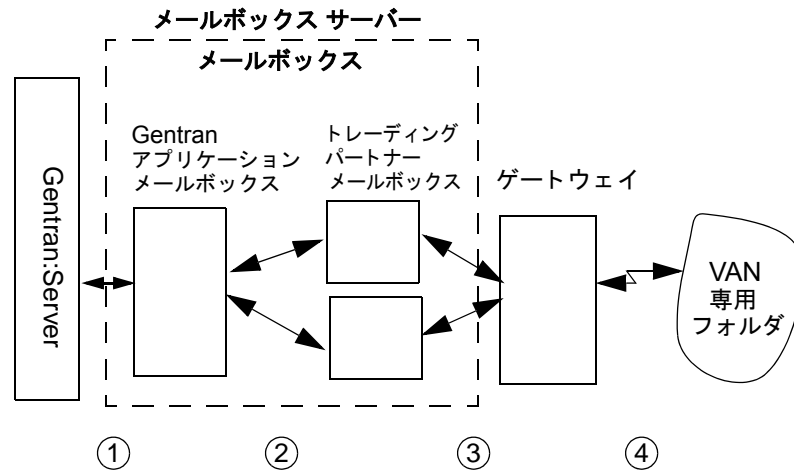
(次のページへ続く)

添付の格納場所

添付が格納される既定のディレクトリは、gensrvnt¥store です。それぞれの添付には、一意の識別番号が割り当てられます。

メッセージの流れ

次の図に、メールボックス サーバー内のメッセージの流れの概略を示します。図中の番号は、「[メッセージの流れの説明](#)」の表に対応しています。



メッセージの流れの説明

次の表に、Gentran:Server 内のメッセージの流れをまとめます。この表の各段階は、「[メッセージの流れ](#)」の図中の番号に対応しています。

段階	説明
1	Gentran:Server で送受信されるメッセージは、すべて Gentran:Server アプリケーション メールボックスに格納されます。
2	メッセージは、Gentran アプリケーション メールボックスと、メールボックス サーバーに作成したトレーディング パートナー メールボックスとの間で転送されます。
3	トレーディング パートナー メールボックスごとに定義するプロパティによって、トレーディング パートナーへのメッセージの転送方法が決まります。
4	ゲートウェイによって、VAN、トレーディング パートナーのコンピュータ、またはファイルシステム上のフォルダとの実際のコミュニケーションズが制御されます。

(次のページへ続く)

**アウトバウンド
メッセージの流れ**

次の表で、Gentran:Server からトレーディング パートナーへのドキュメントの流れを説明します。

段階	説明
1	ビジネスドキュメントが Gentran:Server 上で処理されます。ドキュメントは、[アウトドキュメント]フォルダに格納され、インターチェンジ内でグループとしてまとめられます。インターチェンジは、Gentran アプリケーション メールボックスの [アウトボックス] に作成されたメールメッセージに添付されます。
2	Gentran:Server によって、メッセージがトレーディング パートナーの [インボックス] に配送されます。
3	コミュニケーションズ サブシステムによって、メッセージがトレーディング パートナーのメールボックスに関連付けられたゲートウェイを経由して、VAN、トレーディング パートナー、または指定されたフォルダに転送されます。
4	トレーディング パートナーのメールボックス内のメッセージに、送信済みであることを示すマークが付けられます。
5	Gentran:Server に対して、伝送の成功または失敗が通知されます。

**インバウンド
メッセージの流れ**

次の表に、Gentran:Server とコミュニケーションズ サブシステムでのドキュメントのインバウンドの流れを示します。

段階	説明
1	トレーディング パートナーが、メッセージを受信可能な状態にします。 例 たとえば、メッセージを VAN 上のメールボックスに格納します。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ トレーディング パートナーとの通信が VAN または直接接続で行われる場合は、まずコミュニケーションズ サブシステムによってリモート システムへの接続が確立されます。次に、メッセージが取り出され、Gentran:Server 上のトレーディング パートナーの [アウトボックス] に格納されます。 ▶ トレーディング パートナーがサードパーティ製のコミュニケーションズ ソフトウェアを使用している場合は、コミュニケーションズ サブシステムによって指定フォルダからファイルが収集され、トレーディング パートナーの [アウトボックス] に格納されます。 <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

3	Gentran:Server によって、トレーディング パートナーの [アウトボックス] から Gentran アプリケーションの [インボックス] へのファイルのルーティングが行われます。
4	Gentran:Server によって、ドキュメントが Gentran アプリケーション メールボックスの [インボックス] から取り出され、[インドキュメント] フォルダに格納されます。

詳細について

メールボックス サーバーでのメッセージおよび添付の処理についての詳細は、このマニュアル「[メッセージの追跡](#)」を参照してください。

コミュニケーションズの構成

目次

概要	2
▶ はじめに	2
▶ メールボックスの [サーバー マネージャ]	3
▶ ファイル システム ゲートウェイ プロパティ	7
▶ ファイル システム ゲートウェイ プロパティ	8
▶ サーバーのプロパティ	14
▶ メールボックス プロパティ	23
▶ [インポート / エクスポート] ダイアログ ボックス	28
メールボックス サーバー サービス	29
▶ サービスの依存関係の構成方法	29
▶ メールボックス サービスの開始方法	32
▶ メールボックス サービスの停止方法	33
ゲートウェイの構成手順	34
▶ 設定処理	34
▶ ファイル システム ゲートウェイの構成方法	36
▶ ファイル システム メールボックスの作成方法	38
▶ メールボックス プロパティの修正方法	42
▶ メールボックスのエクスポート方法	43
▶ メールボックスのインポート方法	44

概要

はじめに

本章の内容

この章では、ファイルシステム ゲートウェイのコミュニケーションを構成する手順について説明します。

主な用語

次の表は、本章で使用される主な用語の説明です。

用語	説明
コミュニケーションズ コントローラ	コミュニケーション セッションを制御するコンピュータ。
ファイル システム ゲートウェイ	ファイル システム上の指定されたフォルダに対してメッセージをルーティングするソフトウェア。
メールボックス	メッセージを格納するための、1つまたは複数のフォルダ。

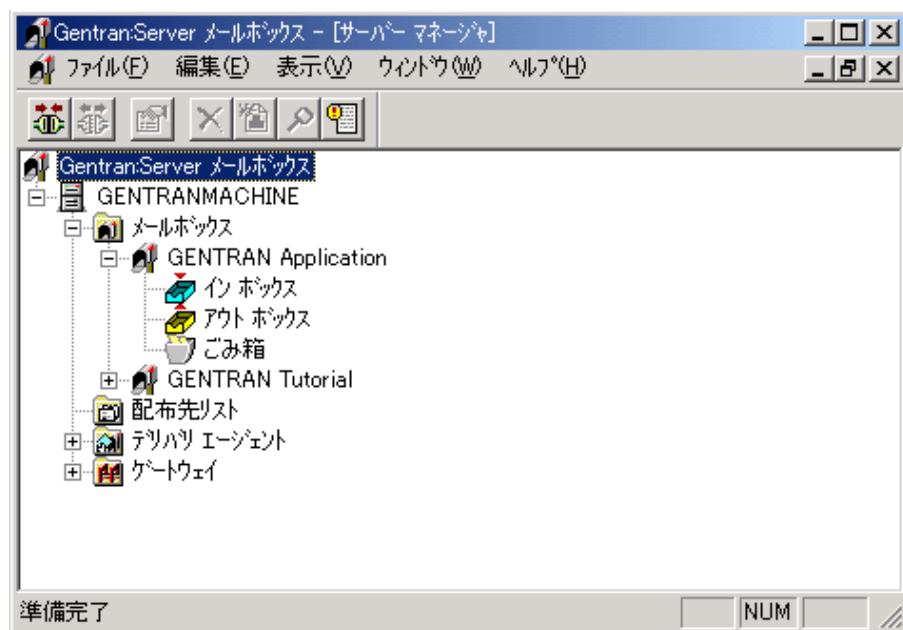
メールボックスの [サーバー マネージャ]

はじめに

メールボックスの [サーバー マネージャ] は、メールボックス サーバーの日常的な管理および保守に使用します。このツールで、メールボックス サーバー、メールボックス、ゲートウェイなどのメールボックス コンポーネントを追加および削除できます。

メールボックスの [サーバー マネージャ]












次の図に、メールボックスの [サーバー マネージャ] の例を示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、メールボックス サーバー マネージャの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
	メールボックス サーバーを表します。メールボックス サーバーは、メールボックス、配布先リスト、デリバリ エージェント、およびゲートウェイを格納するコンテナです。
	サーバーのメールボックス フォルダを表します。メールボックス フォルダには、Gentran:Server で使用するように定義したすべてのメールボックスが含まれます。
	メールボックスを表します。各メールボックスには、3つのエレメントがあります。[イン ボックス]、[アウト ボックス]、および[ごみ箱]コンテナです。これらのエレメントは、新しいメールボックスを作成すると自動的に作成されます。
	[イン ボックス]を表します。
	[アウト ボックス]を表します。
	[ごみ箱]コンテナを表します。
	サーバーの [配布先リスト] を表します。
	サーバーの [デリバリ エージェント] を表します。
	使用可能な [デリバリ エージェント] を表します。
	サーバーの [ゲートウェイ] フォルダを表します。[ゲートウェイ] フォルダには、コミュニケーションズ ゲートウェイが格納されます。
	[ゲートウェイ] を表します。ゲートウェイは、メッセージを送信および受信するために使用します。

(次のページへ続く)

**メールボックス
ツールバー**

次の表は、メールボックス ツールバーのアイコンとその説明をまとめたものです。

アイコン	説明
	メールボックス サーバー を登録します。
	メールボックス サーバーの登録を解除します。
	選択したアイテムのプロパティを編集します。
	選択したアイテムを削除します。
	アイテムを作成します。
	フィルタ ツールを起動します。
	[Gentran オーディット ログ] を起動します。

マウスの右ボタン

マウスの右ボタンをクリック (右クリック) すると、ショートカット メニューが表示されます。表示されるショートカット メニューは、選択したアイテムによって異なります。

(次のページへ続く)

ブラウザの リフレッシュ

ブラウザのリフレッシュ機能を使用すると、アクティブなブラウザに最新の情報を表示できます。ブラウザの表示をリフレッシュするには、次のいずれかの操作を行います。

- ▶ **F5** を押します。
- ▶ メールボックスの [サーバー マネージャ] の [表示] メニューから [リフレッシュ] を選択します。

メールボックスの [サーバー マネージャ] でのメール ボックスの作成

メールボックス サーバーの [メールボックス作成ウィザード] を使用して、ゲートウェイ用のメールボックスを作成できます。[メールボックス作成ウィザード] で、次のプロパティを設定します。

- ▶ トレーディング パートナーのメールボックス名
 - ▶ メールボックスの **Gentran E** メール アドレス
 - ▶ メールボックスをゲートウェイとして使用するかどうか
-

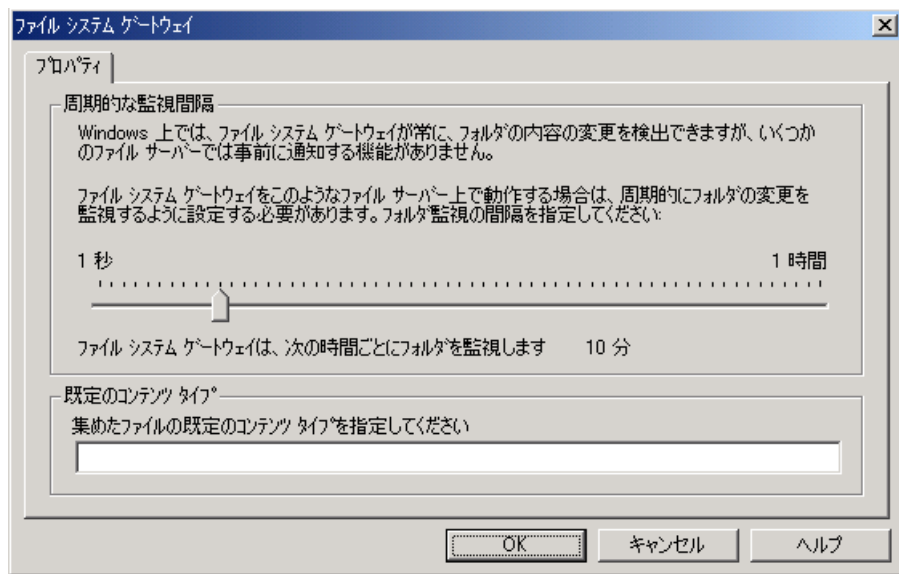
ファイル システム ゲートウェイ プロパティ

はじめに

[ファイル システム ゲートウェイ] ダイアログ ボックスを使用して、ハードディスク上のフォルダにメッセージを格納、またはフォルダから取得するためのプロパティを定義します。

ゲートウェイ プロパティ

次の図に、[ファイル システム ゲートウェイ] ダイアログ ボックスの [プロパティ] タブの例を示します。



各部と機能

次の表に、[ファイル システム ゲートウェイ] ダイアログ ボックスの [プロパティ] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
周期的な監視間隔	ファイル システム ゲートウェイがフォルダをスキャンする間隔を定義します。
既定のコンテンツタイプ	このファイル システム ゲートウェイを使用して収集したすべてのファイルに使用される既定の MIME コンテンツタイプおよびサブタイプを定義します。
OK	ダイアログ ボックスへの変更を保存します。
キャンセル	ダイアログ ボックスへの変更を取り消します。

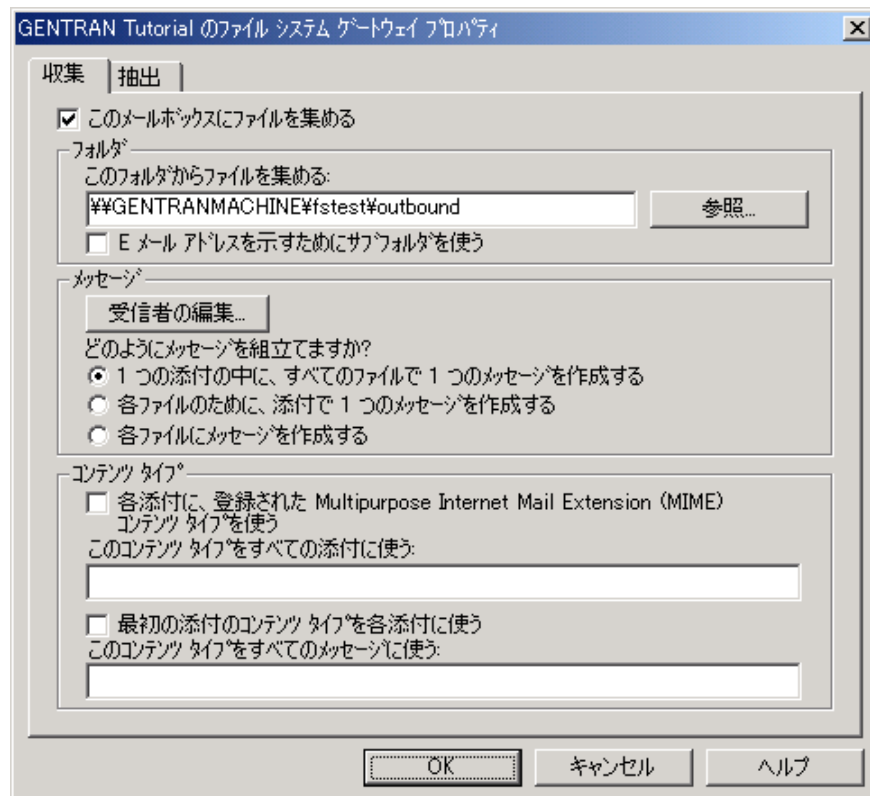
ファイル システム ゲートウェイ プロパティ

はじめに

このセクションでは、[ファイルシステム ゲートウェイ プロパティ] ダイアログボックスの [収集] タブおよび [抽出] タブについて説明します。これらのタブで、ファイルシステム ゲートウェイのメールボックスレベルのプロパティを設定します。

[収集] タブ

次の図に、[ファイルシステム ゲートウェイ プロパティ] ダイアログボックスの [収集] タブの例を示します。



各部と機能

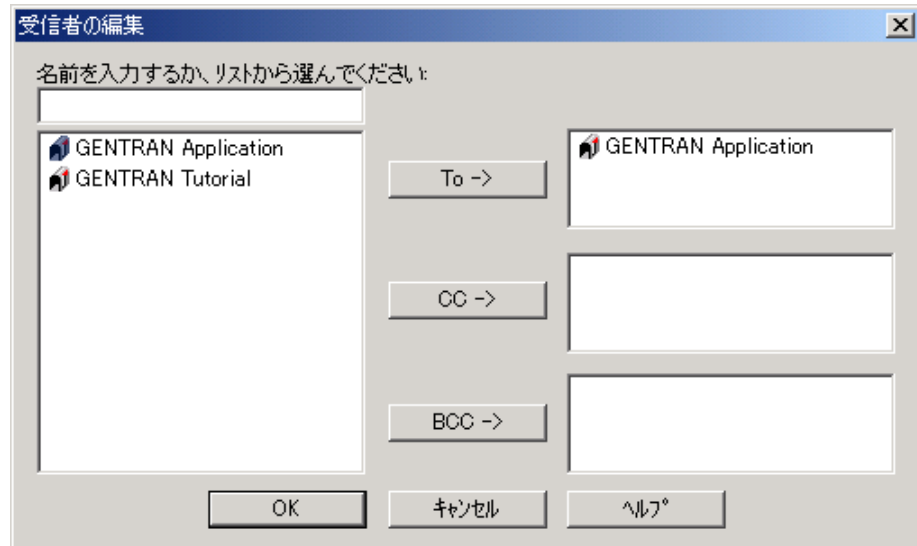
次の表に、[収集] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
このメールボックスにファイルを集める	ゲートウェイがファイル システム フォルダからファイルを収集し、これらのファイルをこのメールボックスに格納するように指定します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
このフォルダから ファイルを集める	ゲートウェイがどのフォルダからファイルを収集するかを指定します。
E メール アドレスを 示すためにサブフォルダを使う	ファイル システム ゲートウェイが、抽出されたファイルを、前のボックスで指定したフォルダのサブフォルダに格納するように指定します。このサブフォルダには、メールボックスの E メール アドレスが適用されます。
受信者の編集	[受信者の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
1 つの添付の中に、 すべてのファイルで 1 つのメッセージを 作成する	すべてのファイルを 1 つの添付に入れて、1 つのメッセージを生成します。
各ファイルのために、 添付で 1 つのメッ セージを作成する	各ファイルを別々の添付に入れ、1 つのメッセージを生成します。
各ファイルにメッ セージを作成する	各ファイルについて、1 つのメッセージと 1 つの添付を作成します。
各添付に、登録され た Multipurpose Internet Mail Extension (MIME) コンテンツ タイプを使う	ファイル拡張子に登録済みの MIME タイプを、添付のコンテンツ タイプとして使用します。ファイル拡張子が登録済みの MIME タイプでない場合は、コンテンツ タイプに " アプリケーション "、およびコンテンツ サブタイプにファイル拡張子がそれぞれ使用されます。
このコンテンツ タイ プをすべての添付に 使う	指定したコンテンツ タイプをすべての添付に使用します。
最初の添付のコンテ ンツ タイプを各添付 に使う	収集された最初のファイル名の拡張子を、現在のメッセージに使用します。
このコンテンツ タイ プをすべてのメッ セージに使う	指定したコンテンツ タイプをすべてのメッセージに使用します。
OK	ダイアログ ボックスへの変更を保存します。
キャンセル	ダイアログ ボックスへの変更を取り消します。
ヘルプ	ダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示します。

[受信者の編集] ダイアログ ボックス

次の図に、[受信者の編集] ダイアログ ボックスの例を示します。



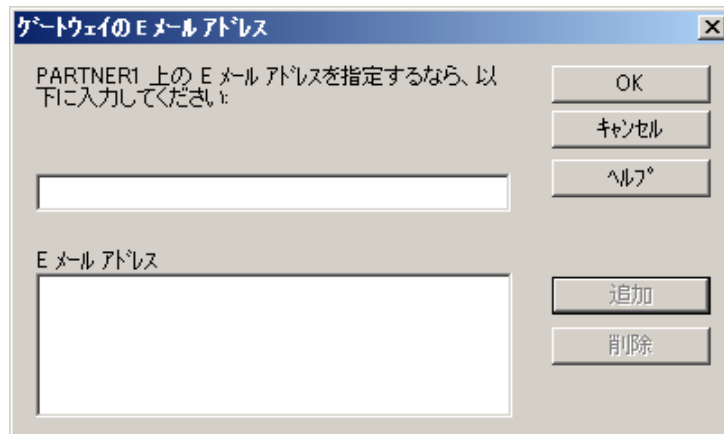
各部と機能

次の表に、[受信者の編集] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
名前を入力するか、リストから選んでください	メッセージの受信者を指定します。
To	指定された受信者にメッセージをルーティングします。
CC	指定された受信者にメッセージのカーボン コピー (CC) をルーティングします。
BCC	指定された受信者にメッセージのブラインド カーボン コピー (BCC) をルーティングします。
OK	ダイアログ ボックスへの変更を保存します。
キャンセル	ダイアログ ボックスへの変更を取り消します。
ヘルプ	ダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示します。

[ゲートウェイの E メール アドレス] ダイアログ ボックス

次の図に、[ゲートウェイの E メール アドレス] ダイアログ ボックスの例を示します。



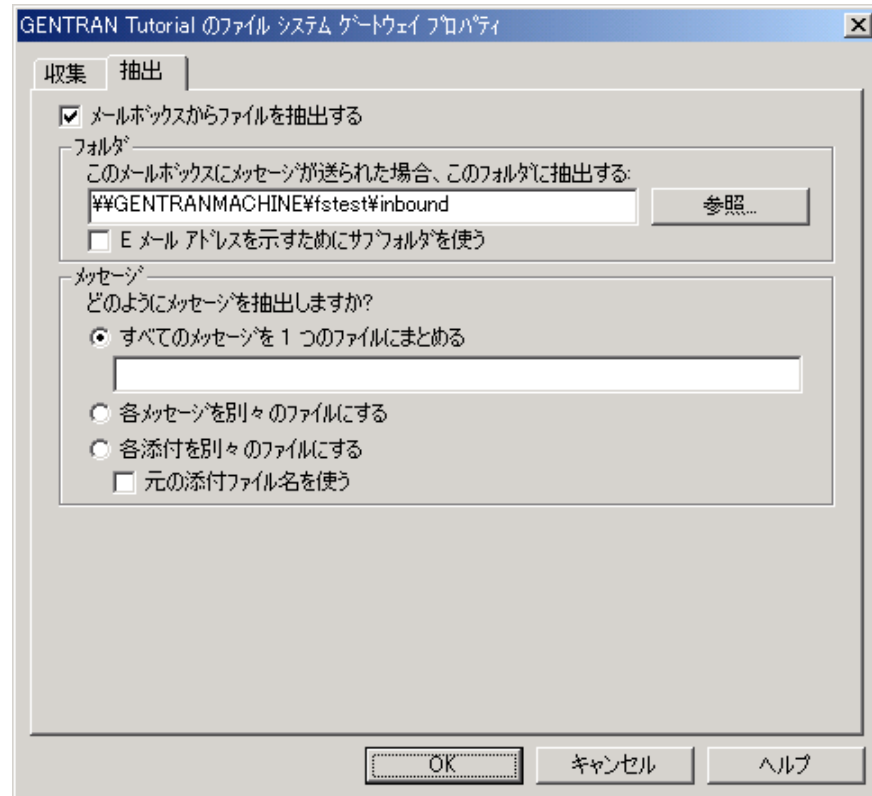
各部と機能

次の表に、[ゲートウェイの E メール アドレス] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
E メール アドレスを指定するなら、以下に入力してください	受信者に関連付ける E メール アドレスを指定します。
E メール アドレス	このリストには、メッセージを受信する VAN または トレーディング パートナーのコンピュータのすべてのメールアドレスが含まれています。
OK	ダイアログ ボックスへの変更を保存します。
キャンセル	ダイアログ ボックスへの変更を取り消します。
ヘルプ	ダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示します。
追加	指定された E メール アドレスを、受信者のシステムルーティング情報に追加します。
削除	指定した E メール アドレスを削除します。

【抽出】タブ

次の図に、[ファイル システム ゲートウェイ プロパティ] ダイアログ ボックスの [抽出] タブの例を示します。



各部と機能

次の表に、[抽出] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
メールボックスからファイルを抽出する	ファイル システム ゲートウェイがファイル システム ゲートウェイ メールボックスからファイルを抽出するように指定します。
このメールボックスにメッセージが送られた場合、このフォルダに抽出する	このメールボックスに送信されたメッセージを格納するフォルダを定義します。
参照	ドライブ、ディレクトリ、およびフォルダを参照して、[抽出] フォルダを指定します。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
E メール アドレスを示すためにサブフォルダを使う	抽出されたファイルが前のボックスで指定したフォルダのサブフォルダに格納されるように指定します。サブフォルダには、メールボックスと同じ名前が付けられます。
すべてのメッセージを1つのファイルにまとめる	このメールボックスに配送された全メッセージの添付をすべて1つのファイルにまとめます。
各メッセージを別々のファイルにする	1つのメッセージのすべての添付を1つのファイルにします。ファイルにはメッセージと同じ名前が付けられます。
各添付を別々のファイルにする	各添付を、それぞれ個別のファイルにします。
元の添付ファイル名を使う	<p>各添付をそれぞれ個別のファイルにする場合にこのオプションを選択すると、各添付の元のファイル名が各ファイルのファイル名になります。</p> <p>このオプションを選択しない場合は、各添付のファイル名として一般的な連番が割り当てられます。</p> <p>例 Att1、Att2、Att3 など。</p>
OK	ダイアログ ボックスへの変更を保存します。
キャンセル	ダイアログ ボックスへの変更を取り消します。
ヘルプ	ダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示します。

サーバーのプロパティ

はじめに

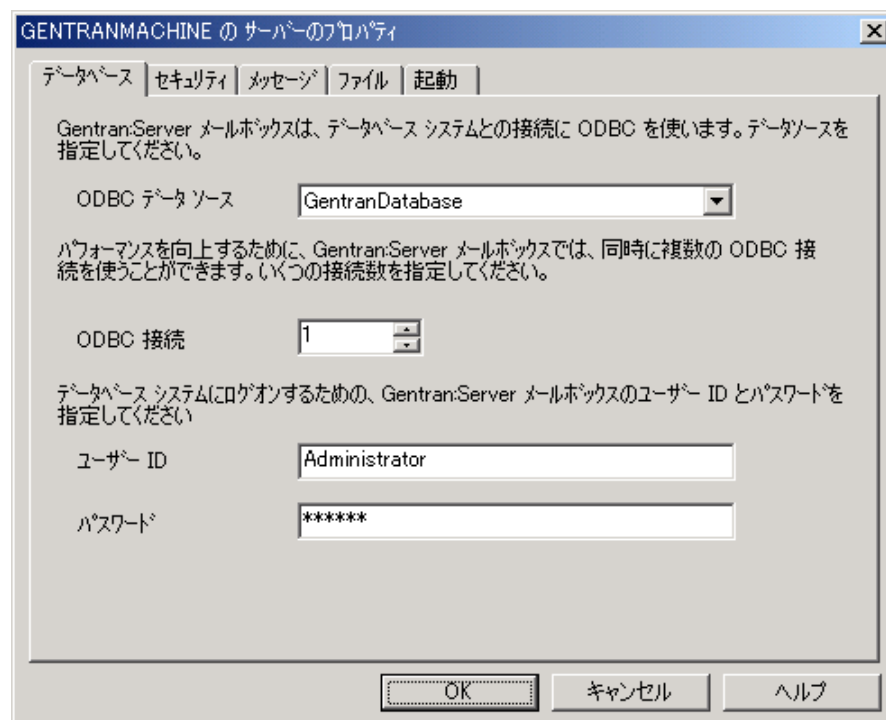
[サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスでは、メールボックス サーバーのプロパティを定義できます。

アクセス方法

サーバー名 (メールボックス サーバーのツリー リストで Gentran:Server メールボックス ルートの下にある最初のノード) を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

[データベース] タブ

次の図に、[サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスの [データベース] タブの例を示します。



(次のページへ続く)

**[データベース]
タブの各部と機能**

次の表に、[サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックスの[データベース]タブの各部とその機能をまとめます。

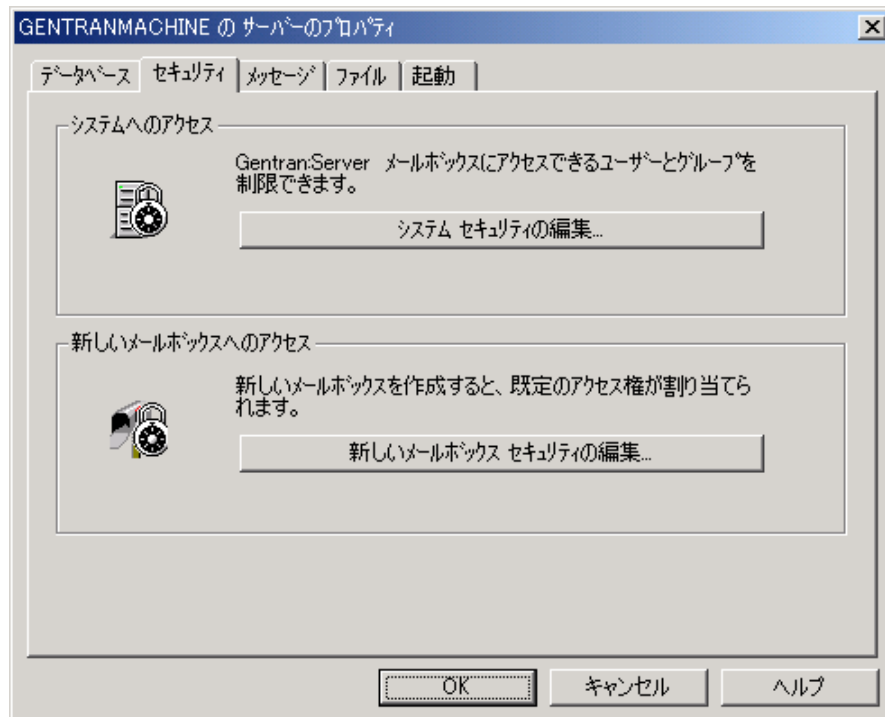
各部	機能
ODBC データソース	使用可能な ODBC データ ソースのリストです。
ODBC 接続	<p>ODBC 接続の数を指定します。</p> <p>メモ メッセージ スレッド数と ODBC 接続数は同じ値に設定する必要があります。ODBC 接続数とスレッド数はともにプロセッサの数によって異なります。これらの値をコンピュータ内のプロセッサの数より大きい値に設定することはお勧めできません。これらの値をプロセッサの数より大きい値に設定すると、リソース競合問題が発生する可能性があります。</p> <p>たとえば、デュアルプロセッサ コンピュータの場合は、メールボックス ODBC 接続数とメッセージ スレッド数をともに "2" に設定します。これにより、各メッセージ スレッドにそれぞれ 1 つの ODBC 接続が割り当てられるようになるため、順番待ちの状態になることなくデータベースに接続し、同時処理を行うことが可能になります。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メッセージ スレッド数の指定方法の詳細については、「[メッセージ]タブの各部と機能」を参照してください。 ▶ Microsoft のスレッド ポリシーの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。
ユーザー ID	<p>データベース ユーザー ID を指定します。</p> <p>例 sa</p>
パスワード	<p>データベース パスワードを指定します。</p> <p>メモ データベース ユーザー ID に対するパスワードがない場合は、このボックスを空白にしておきます。</p>
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

(次のページへ続く)



**【セキュリティ】
タブ**

次の図に、[サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックスの[セキュリティ]タブの例を示します。



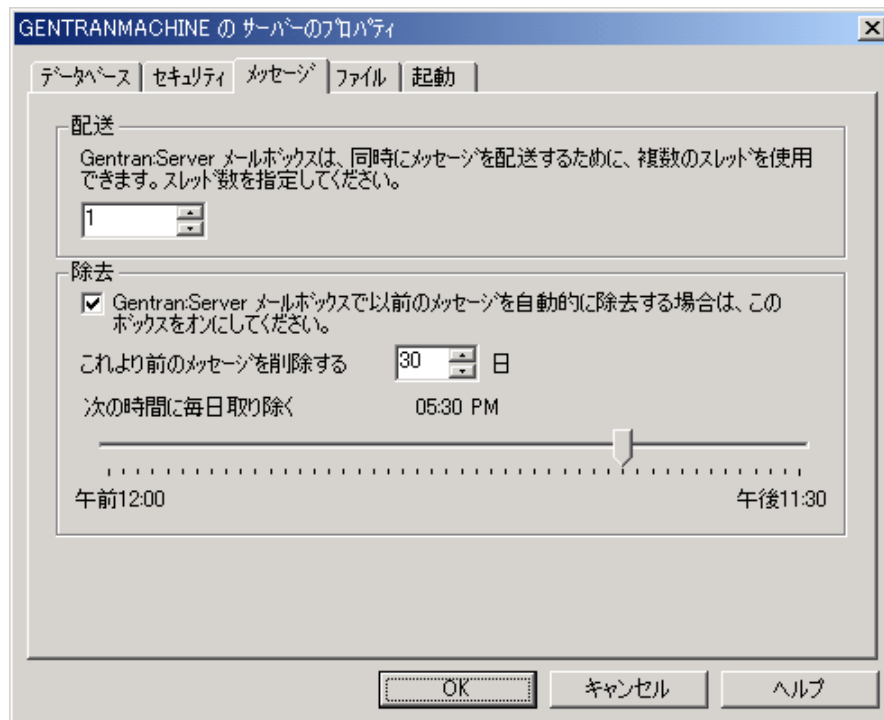
**【セキュリティ】
タブの各部と機能**

次の表に、[サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックスの[セキュリティ]タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
システム セキュリティの編集	[システム セキュリティ]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスで、メールボックス システムのセキュリティ オプションを変更できます。
新しいメールボックス セキュリティの編集	[新しいメールボックス セキュリティ]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスで、新しいメールボックスのセキュリティ オプションを定義できます。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[メッセージ] タブ

次の図に、[サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックスの [メッセージ] タブの例を示します。



(次のページへ続く)

[メッセージ] タブ の各部と機能

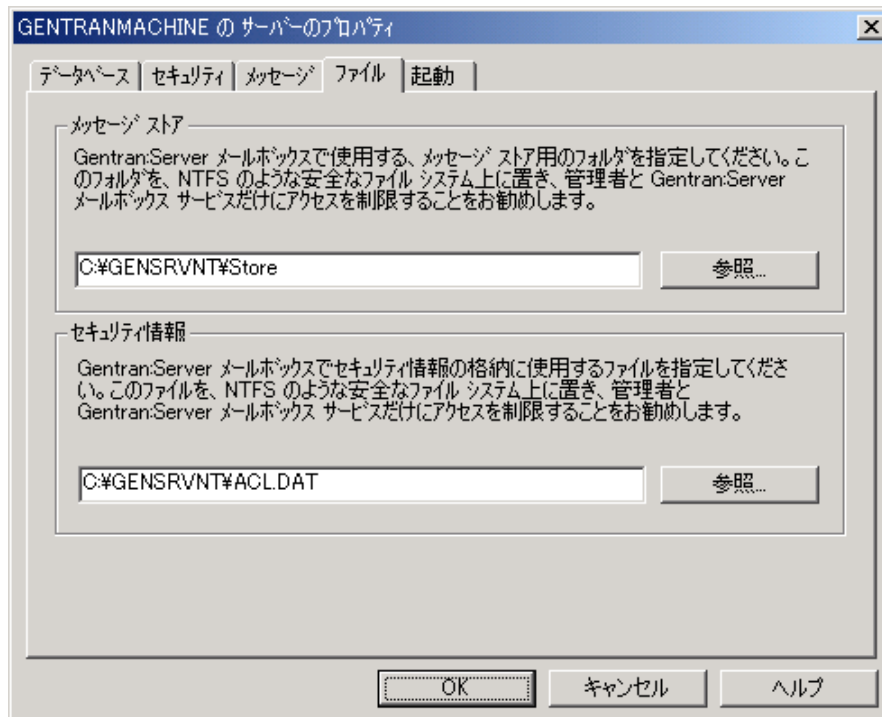
次の表に、[サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックスの [メッセージ] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
スレッド数を指定してください。	<p>使用するスプーラ スレッドの数を指定します。</p> <p>メモ メッセージ スレッド数と ODBC 接続数は同じ値に設定する必要があります。ODBC 接続数とスレッド数はともにプロセッサの数に依存します。これらの値をコンピュータ内のプロセッサの数より大きい値に設定することはお勧めできません。これらの値をプロセッサの数より大きい値に設定すると、リソース競合問題が発生する可能性があります。</p> <p>たとえば、デュアルプロセッサ コンピュータの場合は、メールボックス ODBC 接続数とメッセージ スレッド数をともに "2" に設定します。これにより、各メッセージ スレッドにそれぞれ 1 つの ODBC 接続が割り当てられるようになるため、順番待ちの状態になることなくデータベースに接続し、同時処理を行うことが可能になります。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ODBC 接続数の指定方法の詳細については、「[データベース] タブの各部と機能」を参照してください。 Microsoft のスレッド ポリシーの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。
Gentran:Server メールボックスで 以前のメッセージ を自動的に除去する 場合は、この ボックスをオンに してください。	このチェックボックスを選択すると、Gentran:Server は指定された間隔で古いメッセージを自動的にパージするようになります。
これより前のメッセージを削除する	日数を指定します。この日数より古いメッセージはパージされます。
次の時間に 毎日取り除く	スライド バーをドラッグして、自動メッセージ パージの実行時間を指定します。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

(次のページへ続く)

【ファイル】タブ

次の図に、[サーバーのプロパティ]ダイアログボックスの[ファイル]タブの例を示します。



【ファイル】タブの各部と機能

次の表に、[サーバーのプロパティ]ダイアログボックスの[ファイル]タブの各部とその機能をまとめます。

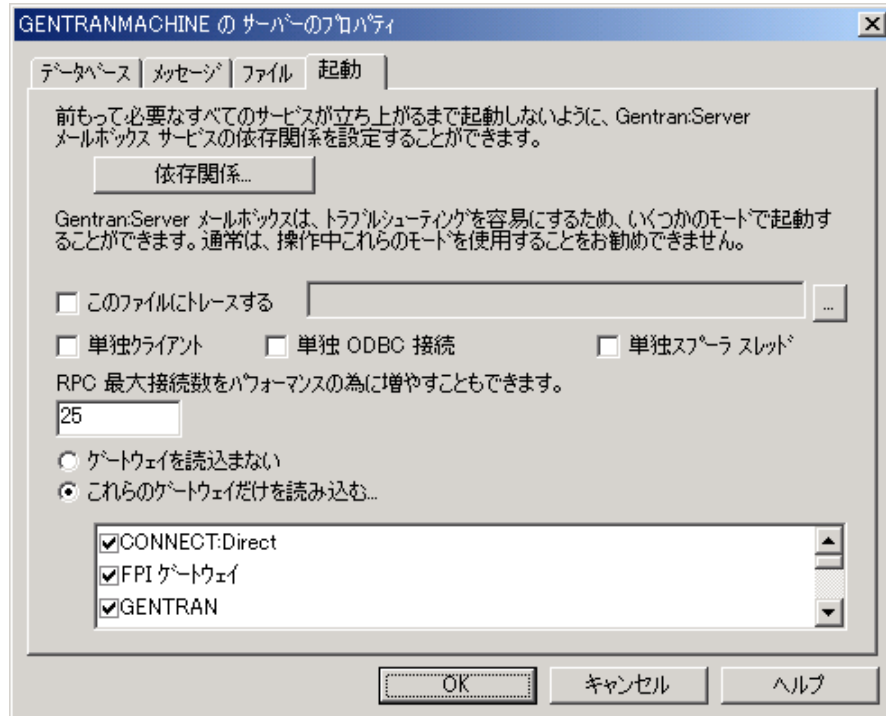
各部	機能
メッセージストア	Gentran:Server メールボックス サーバーがメッセージストア用に使用するフォルダを指定します。
参照	フォルダを参照できます。
セキュリティ情報	Gentran:Server メールボックス サーバーがセキュリティ情報を格納するファイルの名前を指定します。
参照	ファイル名を参照できます。
OK	変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

(次のページへ続く)



【起動】タブ

次の図に、[サーバーのプロパティ]ダイアログボックスの[起動]タブの例を示します。



【起動】タブの各部と機能

次の表に、[サーバーのプロパティ]ダイアログボックスの[起動]タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
依存関係	[依存関係]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、メールボックスサーバーサービス間の依存関係を構成できます。
このファイルにトレースする	このチェックボックスを選択すると、トレースされたデータが指定のファイルにログされます。
...(参照ボタン)	トレースされたデータをログするための特定のファイルを参照および選択できます。
単独クライアント	このチェックボックスを選択すると、システムが単独クライアントモードで起動するようになります。

(次のページへ続く)

各部	機能
<p>単独 ODBC 接続</p>	<p>このチェックボックスを選択すると、システムが単独 ODBC 接続を使用するようになります。</p> <p>メモ ODBC 接続を制限する場合は、このチェックボックスを選択します。</p>
<p>単独スプーラ スレッド</p>	<p>このチェックボックスを選択すると、システムが単独スプーラ スレッドを使用するようになります。</p> <p>メモ スプーラ スレッド数を制限する場合は、このチェックボックスを選択します。</p>
<p>RPC 最大接続数をパフォーマンスの為に増やすことができます。</p>	<p>ユーザー インターフェイスでメールボックス サーバーへの可能な RPC (Remote Procedure Call) 接続の数を指定します。</p> <p>注意 この値を変更するのは、システムのパフォーマンスが向上するのが確実な場合のみにしてください。この値を勝手に変更すると、システムのパフォーマンスが低下することがあります。</p> <p>このボックスには妥当な値を入力するように注意してください。システムに対する妥当な値が分からない場合は、既定値の 25 を変更しないでください。Server、Advanced Server、Datacenter Server に対して大きな値を指定すると、大量の非ページ共有メモリ が使用されることがあります。逆に、値が小さすぎるのも好ましくありません。値が小さすぎると、バックログ キューが一杯になった場合に、TCP SYN パケット がサーバーからの TCP RST によって満たされることとなります。このボックスに適切な値を指定するためには、システムのメモリ フットプリントとそのスケラビリティ 要件のバランスを考慮する必要があります。</p> <p>サーバー アプリケーションがリモート プロシージャ呼び出しを受け入れるためには、そのアプリケーションをネットワーク上で使用可能な状態にする必要があります。そのために、サーバーは RPC ランタイムに対し、アプリケーションが 1 つまたは複数のプロトコル シーケンスで呼び出しを自発的に受け入れることを指示します。サーバー アプリケーションでサポートされているプロトコル シーケンスを選択することは大切なことです。選択するプロトコル シーケンスによって、その機能も大きく異なります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

各部	機能
<p>RPC 最大接続数をパフォーマンスの為に増やすこともできます。 (続き)</p>	<p>ほとんどのサーバープログラムは、ネットワーク上で使用可能なすべてのプロトコルシーケンスを使用します。リモート プロシージャ呼び出し要求を受信するには、サーバーが1つ以上のプロトコルシーケンスをRPCランタイムライブラリに登録する必要があります。RPCランタイムライブラリは、サーバーによって登録された各プロトコルシーケンスに対し、1つまたは複数のエンドポイントを作成します。サーバーが受信するリモートプロシージャ呼び出し要求はこれらのエンドポイントを通過します。RPCランタイムライブラリが作成するエンドポイントはプロトコルシーケンスごとに異なり、そのエンドポイントの名前はRPCランタイムまたはオペレーティングシステムによって生成されます。RPCランタイムまたはWindowsソケットのプロバイダは、この値を上書きできます。</p> <p>例 たとえば、Windows XP Personal および Professional、または Windows 2000 Professional の場合、この値は5に制限され、5より大きい値は無視されます(代わりに5が使用されます)。Windows XP/2000 Server、Advanced Server、および Datacenter Server の場合は、このボックスに指定した値が使用されます。</p>
<p>ゲートウェイを読み込まない</p>	<p>このオプションを選択すると、インストールされているゲートウェイはいずれもこのコンピュータに読み込まれません。</p>
<p>これらのゲートウェイだけを 読み込む</p>	<p>このオプションを選択すると、(下のリストで)選択したゲートウェイのみがこのコンピュータに読み込まれるようになります。</p>
<p>ゲートウェイのリスト</p>	<p>インストールされているゲートウェイが一覧表示されます。</p>
<p>OK</p>	<p>変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。</p>
<p>キャンセル</p>	<p>変更を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。</p>
<p>ヘルプ</p>	<p>オンラインヘルプを表示します。</p>

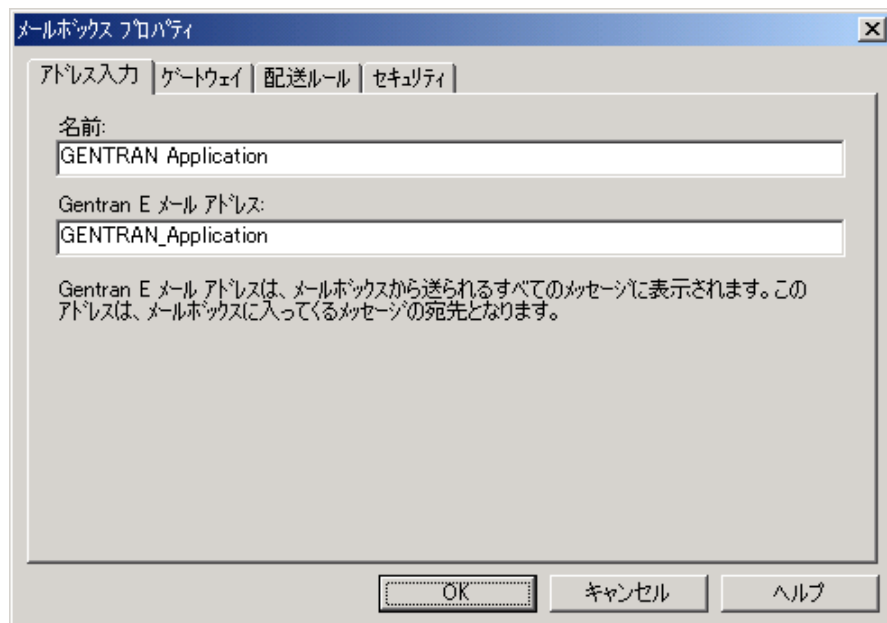
メールボックス プロパティ

はじめに

[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスでは、メールボックスのプロパティを定義します。

[アドレス入力] タブ

次の図に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [アドレス入力] タブの例を示します。



各部と機能

次の表に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [アドレス入力] タブの各部とその機能をまとめます。

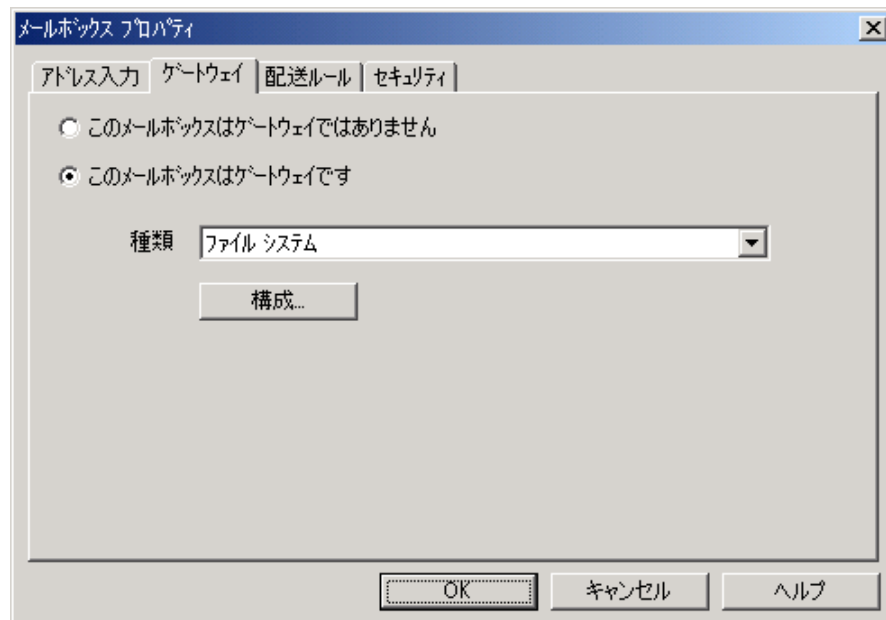
各部	機能
名前	メールボックスの名前を定義します。
Gentran E メールアドレス	メールボックスから送信されるメッセージの Gentran E メールアドレスを定義します。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

(次のページへ続く)



[ゲートウェイ] タブ

次の図に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [ゲート ウェイ] タブの例を示します。



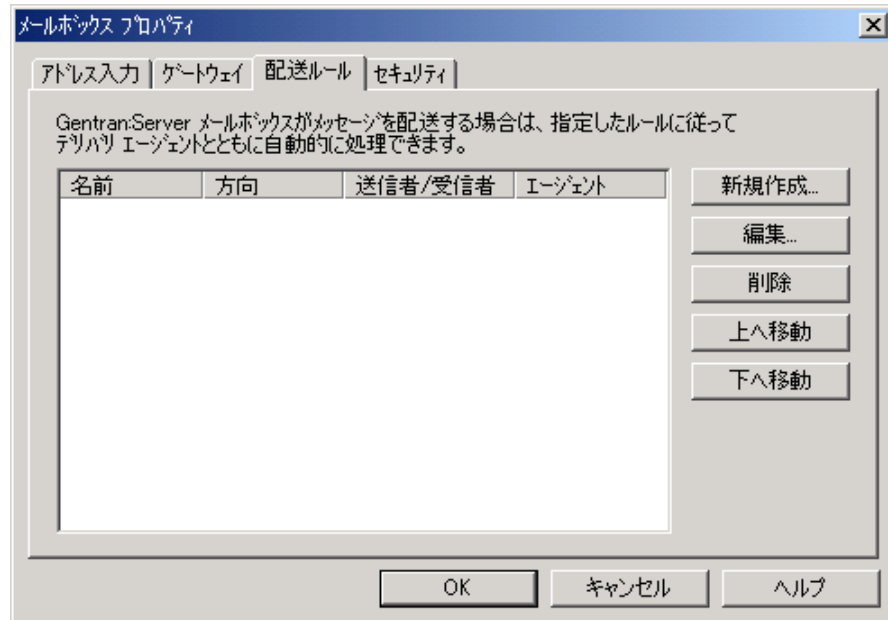
各部と機能

次の表に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [ゲート ウェイ] タブの各部分とその機能をまとめます。

各部	機能
ゲートウェイ	メールボックスがゲートウェイであるかどうかを指定します。 オプションは次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [このメールボックスはゲートウェイではありません] ▶ [このメールボックスはゲートウェイです]
種類	ゲートウェイの種類を指定します。[このメールボックスはゲートウェイです] ラジオ ボタンが選択されている場合にのみアクティブになります。
構成	選択したゲートウェイのプロパティを構成できます。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[配送ルール] タブ

次の図に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [配送ルール] タブの例を示します。



各部と機能

次の表に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [配送ルール] タブの各部分とその機能をまとめます。

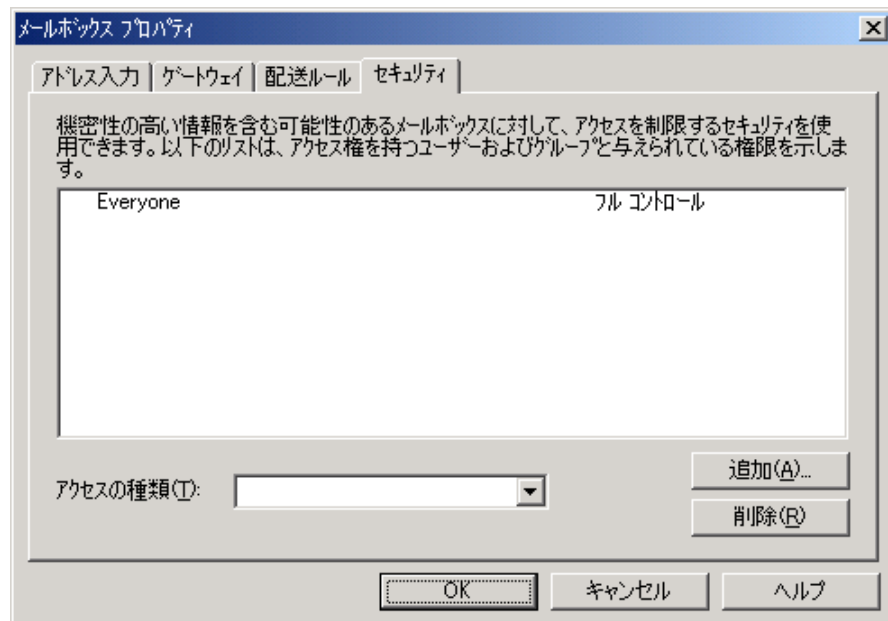
各部	機能
名前	配送ルールの名前を定義します。
方向	メッセージの送信時または受信時のどちらでルールを実行するかを示します。
送信者 / 受信者	送信者または受信者のメールボックスを指定します。メールボックス名とは別にメール アドレスを指定できます。
エージェント	実行するデリバリ エージェントの名前を指定します。
新規作成	新しい配送ルールを作成します。
編集	既存の配送ルールを編集します。
削除	配送ルールを削除します。
上へ移動	選択されている配送ルールの処理順序を 1 つ上へ移動します。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
下へ移動	選択されている配送ルールの処理順序を 1 つ下へ移動します。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

【セキュリティ】 タブ

次の図に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [セキュリティ] タブの例を示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[メールボックス プロパティ]ダイアログ ボックスの[セキュリティ]タブの各部分とその機能をまとめます。

各部	機能
ユーザーのリスト	メールボックスにアクセスできるユーザーおよびグループを定義します。
アクセスの種類	メールボックスに対するユーザーの権限を指定します。 指定できる値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [フル コントロール] ▶ [読み込み] ▶ [書き込み]
追加	ユーザーまたはグループに、メールボックスへのアクセス権を与えます。
削除	ユーザーまたはグループのメールボックスへのアクセス権を取り消します。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[インポート / エクスポート] ダイアログ ボックス

はじめに

[インポート / エクスポート] ダイアログ ボックスを使用すると、メールボックスを XML ファイルとしてエクスポートした後、それを別のコンピュータまたはシステムのメールボックス サーバー マネージャにインポートできます。

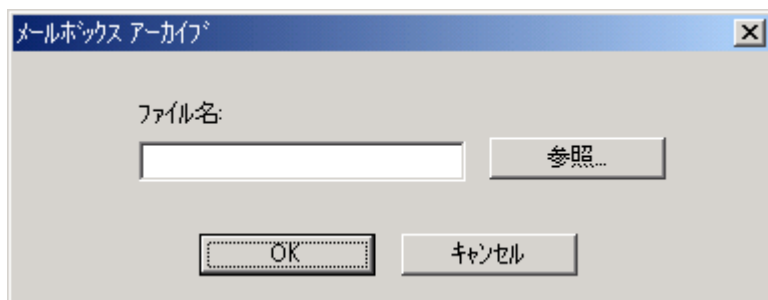
アクセス方法

エクスポート機能にアクセスするには、メールボックスを右クリックし、ショートカット メニューから [エクスポート] を選択します。

インポート機能にアクセスするには、メールボックス ノードを右クリックし、ショートカット メニューから [インポート] を選択します。

[インポート / エクスポート] ダイアログ ボックス

次の図に、[インポート / エクスポート] ダイアログ ボックスの例を示します。



各部と機能

次の表に、[インポート / エクスポート] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイル名	インポートまたはエクスポートするファイルの名前です。
参照	メールボックスをインポートまたはエクスポートするためのファイルを選択できます。
OK	インポート機能またはエクスポート機能を実行し、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	機能を取り消して、ダイアログ ボックスを閉じます。

メールボックス サーバー サービス

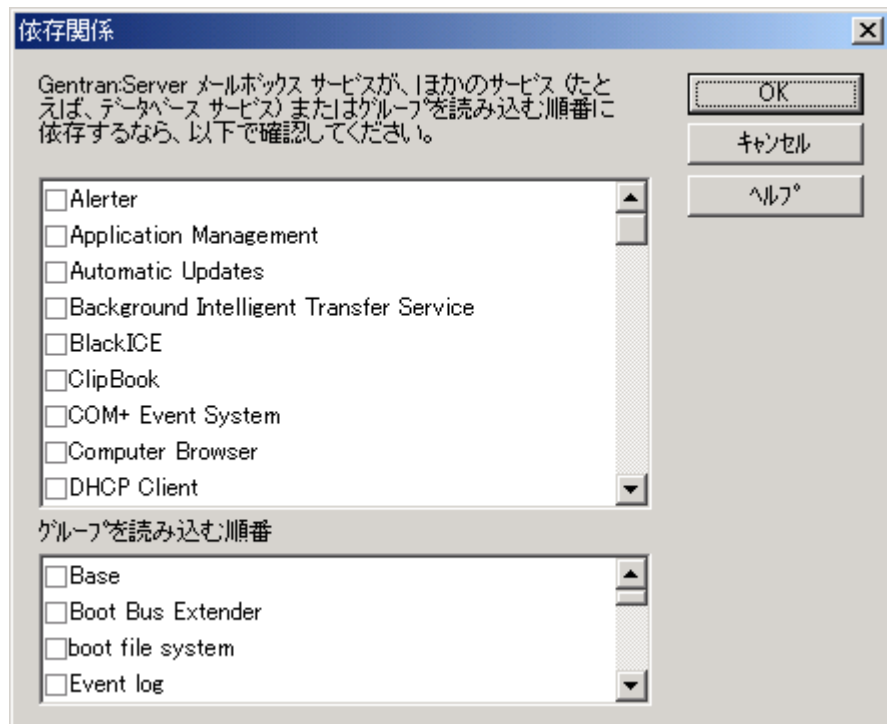
サービスの依存関係の構成方法

はじめに

メールボックス サーバーの動作は、Windows サービスに基づいています。これらのサービスは相互に依存している場合が多く、サービスの開始と停止は適切な順序で行うように構成する必要があります。

[依存関係] ダイアログボックス

次の図に、メールボックス サーバー サービスの [依存関係] ダイアログボックスを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[依存関係]ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
サービス	メールボックス サーバーがインストールされているコンピュータで使用可能な Microsoft Windows サービスのリストが表示されます。
グループを読み込む順番	メールボックス サーバーがインストールされているコンピュータの Windows サービスのグループのリストが表示されます。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

手順

メールボックス サーバー サービス間の依存関係を構成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	メールボックス サーバーを選択します。 例 MEASLE
3	右クリックして[プロパティ]を選択します。 システムからの応答 メールボックス サーバーのプロパティ ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[起動] タブを選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
5	<p>[依存関係] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [依存関係] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>Gentran:Server メールボックス サービスが依存しているチェックボックスを選択して、[OK] をクリックします。</p> <p>例 Gentran:Server で Microsoft SQL データベースを使用する場合を考えます。Gentran:Server メールボックス サービスを開始する際に、既に SQL データベース サービスが実行されているようにするには、[Services] リストから [MSSQLServer] サービスを選択します。これにより、[MSSQLServer] サービスが Gentran:Server メールボックス サービスより先に開始されます。</p>

メールボックス サービスの開始方法

はじめに

通常、Gentran:Server エグゼグティブ サービスを開始すると、Gentran:Server メールボックス サービスが自動的に開始されます。しかし、Gentran:Server メールボックス サービスを停止してから再起動する必要がある場合もあります。

手順

Gentran:Server メールボックス サービスを開始するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。 システムからの応答 メールボックスの [サーバー マネージャ] ブラウザが表示されます。
2	メールボックス サーバーを選択します。
3	右クリックして [開始] を選択し、選択したメールボックス サーバーのメッセージルーティングを開始します。 メモ Gentran:Server エグゼグティブ サービスと Gentran:Server コミュニケーションズ サービスも再起動する必要があります。

メールボックス サービスの停止方法

はじめに

Gentran:Server メールボックス サービスによって、メールボックス システム内のメッセージのルーティングが行われます。

Gentran:Server エグゼクティブ サービスは、Gentran:Server メールボックス サービスに依存します。Gentran:Server メールボックス サービスを停止するには、Microsoft Windows コントロール パネルのサービス アプレットを使用します。

使用する場合

Gentran:Server メールボックス サービスを停止する必要があるのは、SQL データベースの定期保守作業を行う場合などです。

始める前に

Gentran:Server メールボックス サービスを停止する前に、Gentran:Server エグゼクティブ サービスと Gentran:Server コミュニケーションズ サービスを停止する必要があります。

手順

Gentran:Server メールボックス サービスを停止するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>メールボックス サーバー マネージャを起動します。</p> <p>システムからの応答 メールボックスの [サーバー マネージャ] ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>メールボックス サーバーを選択します。</p>
3	<p>右クリックして [停止] を選択し、選択したメールボックス サーバーのメッセージルーティングを停止します。</p> <p>メモ Gentran:Server エグゼクティブ サービスまたは Gentran:Server コミュニケーションズ サービスが停止していないと、エラー メッセージが表示されます。</p>

ゲートウェイの構成手順

設定処理

はじめに

トレーディング パートナーとドキュメントの送受信を開始する前に、ご使用のコミュニケーションズ ハードウェアおよびソフトウェアを設定する必要があります。

設定の各段階

次の表に示す各段階を経て、ファイルシステム上のフォルダにメッセージを収集および抽出できるようにコミュニケーションズを構成します。

段階	説明
1	ファイルシステム ゲートウェイを構成します。 参照 詳細については、「 ファイルシステム ゲートウェイの構成方法 」を参照してください。
2	使用するファイルシステム メールボックスを作成します。 参照 詳細については、「 ファイルシステム メールボックスの作成方法 」を参照してください。

(次のページへ続く)

**オプション ゲート
ウェイの処理**

次の表に示す各段階を経て、リモート メッセージング システムと共に使用できるようにコミュニケーションズを構成します。

段階	説明
1	オプション ゲートウェイをインストールします。 参照 インストールの手順については、『Gentran:Server® Windows® オプション パック インストール カード』を参照してください。
2	オプション ゲートウェイを構成します。 参照 構成の手順については、オプション ゲートウェイと共にインストールされる『設定 ガイド』オンライン マニュアルを参照してください。
3	使用するメールボックスを作成します。 参照 構成の手順については、オプション ゲートウェイと共にインストールされる『設定 ガイド』オンライン マニュアルを参照してください。

ファイル システム ゲートウェイの構成方法

はじめに

コミュニケーションズ コントローラによってメッセージが自分のファイル システムにルーティングされるように設定するには、まずファイル システム ゲートウェイを構成します。このゲートウェイを使用して、ファイル システム上のフォルダにアウトバウンド メッセージを抽出したり、またはインバウンド メッセージを収集して、これらのメッセージを Gentran:Server メールボックスにルーティングしたりできます。

始める前に

使用するフォルダが既に定義されていることを確認します。

手順

ファイル システム ゲートウェイを構成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>メールボックス サーバー マネージャを起動します。</p> <p>システムからの応答 [サーバー マネージャ] ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[サーバー マネージャ] ペインで [メールボックス サーバー] を選択し、これを右クリックして [サーバーの登録] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [サーバーの登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>メールボックス サーバーの名前を入力し、[OK] をクリックします。クラスタでコミュニケーションズ サーバーが実行されている場合は、クラスタ名を入力し、[OK] をクリックします。</p>
4	<p>[ゲートウェイ] フォルダから [ファイル システム] を選択します。</p>
5	<p>右クリックして [プロパティ] を選択し、このゲートウェイのプロパティを定義します。</p> <p>システムからの応答 [ファイル システム ゲートウェイ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>スライダを移動して、適切な間隔に設定します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	[既定のコンテンツ タイプ] ボックスに「 Application/EDI 」と入力します。
8	<p>[OK] をクリックすると、このゲートウェイの構成が完了します。</p> <p>これで、このゲートウェイで使用するファイル システム メールボックスを作成する準備が整いました。</p>

ファイル システム メールボックスの作成方法

はじめに

ファイル システム ゲートウェイの構成が完了したら、メッセージを交換するトレーディング パートナーごとにメールボックスを作成する必要があります。

始める前に

トレーディング パートナー用のメールボックスの作成を開始する前に、次の情報を確認する必要があります。

- ▶ トレーディング パートナーの名前
- ▶ トレーディング パートナーの EDI コードまたは E メール アドレス
- ▶ このトレーディング パートナーへのアウトバウンド メッセージを格納するフォルダ
- ▶ このトレーディング パートナーからのインバウンド メッセージを格納するフォルダ

手順

ファイル システム メールボックスを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[メールボックス] フォルダ アイコンを選択します。
3	右クリックして [作成] を選択します。 システムからの応答 [メールボックス作成ウィザード] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	作成するメールボックスの名前を入力し、[次へ] を 2 回クリックします。 システムからの応答 メールボックスをゲートウェイとして使用するかどうかを尋ねるダイアログが表示されます。
5	[はい、このメールボックスはゲートウェイです] をクリックします。
6	このメールボックスで使用するゲートウェイの種類として [ファイル システム] を選択し、[次へ] をクリックします。 システムからの応答 [概要] ダイアログ ボックスが表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作									
7	入力した情報が正しいかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 正しい場合は、[完了] をクリックします。 ▶ 正しくない場合は、[戻る] ボタンをクリックして情報を訂正します。[完了] をクリックします。 <p>システムからの応答 [ファイルシステム ゲートウェイプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ メールボックスを作成しようとしたときにデータ ストアが見つからない場合には、エラー メッセージ ボックスが生成され、メールボックスを作成できないことが通知されます。[OK] をクリックしてメッセージ ボックスを閉じ、[キャンセル] をクリックして [メールボックス作成ウィザード] を終了します。</p>									
8	次の表に従って、次に行う操作を決めます。 <table border="1" data-bbox="603 943 1422 1191"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 943 987 1003">実行する操作</th> <th data-bbox="987 943 1422 1003">選択する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 1003 987 1099">トレーディング パートナーにメッセージを送信する</td> <td data-bbox="987 1003 1422 1099">[抽出] タブを選択し、ステップ 9 へ進みます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1099 987 1191">トレーディング パートナーからメッセージを受信する</td> <td data-bbox="987 1099 1422 1191">[収集] タブを選択し、ステップ 13 へ進みます。</td> </tr> </tbody> </table>		実行する操作	選択する項目	トレーディング パートナーにメッセージを送信する	[抽出] タブを選択し、ステップ 9 へ進みます。	トレーディング パートナーからメッセージを受信する	[収集] タブを選択し、ステップ 13 へ進みます。		
実行する操作	選択する項目									
トレーディング パートナーにメッセージを送信する	[抽出] タブを選択し、ステップ 9 へ進みます。									
トレーディング パートナーからメッセージを受信する	[収集] タブを選択し、ステップ 13 へ進みます。									
9	[メールボックスからファイルを抽出する] チェックボックスを選択します。									
10	[このメールボックスにメッセージが送られた場合、このフォルダに抽出する] ボックスに有効なパス名を入力します。									
11	次の表に従って、次に行う操作を決めます。 <table border="1" data-bbox="603 1442 1422 1890"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 1442 987 1503">操作</th> <th data-bbox="987 1442 1422 1503">選択する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 1503 987 1659">すべてのメッセージを 1 つのファイルにまとめる</td> <td data-bbox="987 1503 1422 1659">[すべてのメッセージを 1 つのファイルにまとめる] オプションを選択し、ボックスにファイル名を入力します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1659 987 1756">各メッセージを個別のファイルに抽出する</td> <td data-bbox="987 1659 1422 1756">[各メッセージを別々のファイルにする]</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1756 987 1890">各メッセージの添付を別々のファイルに抽出する</td> <td data-bbox="987 1756 1422 1890">[各添付を別々のファイルにする] (次のページへ続く)</td> </tr> </tbody> </table>		操作	選択する項目	すべてのメッセージを 1 つのファイルにまとめる	[すべてのメッセージを 1 つのファイルにまとめる] オプションを選択し、ボックスにファイル名を入力します。	各メッセージを個別のファイルに抽出する	[各メッセージを別々のファイルにする]	各メッセージの添付を別々のファイルに抽出する	[各添付を別々のファイルにする] (次のページへ続く)
操作	選択する項目									
すべてのメッセージを 1 つのファイルにまとめる	[すべてのメッセージを 1 つのファイルにまとめる] オプションを選択し、ボックスにファイル名を入力します。									
各メッセージを個別のファイルに抽出する	[各メッセージを別々のファイルにする]									
各メッセージの添付を別々のファイルに抽出する	[各添付を別々のファイルにする] (次のページへ続く)									

(続き) ステップ	操作	
12	<p>トレーディング パートナーからメッセージを受信するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 受信する場合は、[収集] タブを選択し、ステップ 13 へ進みます。 ▶ 受信しない場合は、[OK] をクリックします。この手順は完了です。 	
13	[このメールボックスにファイルを集める] チェックボックスを選択します。	
14	<p>[このフォルダからファイルを集める] ボックスにパス名を入力します。</p> <p>注意 ファイルの収集に使用するフォルダは、新規に作成することをお勧めします。次の拡張子のファイルが保存されているフォルダは使用しないでください。 .exe、.dll、.hlp、.bat、.cmd、.sys、.cpl、.ocx、.map、.stp、.tpl、.ses、.ard、.arv</p> <p>メモ 新規フォルダ内のすべてのアイテムが収集および削除される点に注意してください。</p>	
15	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択する項目
	すべてのファイルを 1 つの添付にマージして、1 つのメッセージを作成する	[1 つの添付の中に、すべてのファイルで 1 つのメッセージを作成する]
	添付として追加された各ファイルで、1 つのメッセージを作成する	[各ファイルのために、添付で 1 つのメッセージを作成する]
	収集するファイルごとに別々のメッセージを作成する	[各ファイルにメッセージを作成する]
16	<p>[このコンテンツ タイプをすべての添付に使う] ボックスに「Application/EDI」と入力します。</p> <p>メモ 「Application/Import」を入力して、メッセージとともに、ファイルが自動的にインポートされるようにすることもできます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>	

(続き) ステップ	操作
17	[受信者の編集] をクリックします。 システムからの応答 [受信者の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
18	受信したメッセージを Gentran:Server に転送するには、[Gentran アプリケーション] を選択して [To] をクリックします。 システムからの応答 [E メールアドレス] ダイアログ ボックスが表示されます。
19	E メールアドレスを指定するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、このボックスに E メールアドレスを入力して [追加] をクリックします。指定するすべての E メールアドレスについて、この手順を繰り返します。[OK] をクリックし、[受信者の編集] ダイアログ ボックスに戻ります。次のステップに進みます。 ▶ 指定しない場合は、[キャンセル] をクリックします。次のステップに進みます。
20	[OK] をクリックします。 システムからの応答 [収集] タブに戻ります。
21	[OK] をクリックして、変更を保存します。

メールボックス プロパティの修正方法

はじめに

このセクションでは、[メールボックス作成ウィザード]を使用して作成されたメールボックスのプロパティを修正する方法を説明します。

手順

メールボックス プロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作	
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。	
2	[メールボックス]フォルダを展開します。	
3	プロパティを追加または修正するメールボックスを選択します。	
4	右クリックして、ショートカット メニューから[プロパティ]を選択します。 システムからの応答 [メールボックス プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。	
5	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	修正内容	選択するタブ
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 名前 ▶ Gentran E メール アドレス 	[アドレス入力]
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゲートウェイプロパティ ▶ 構成プロパティ 	[ゲートウェイ]
	配送ルール	[配送ルール]
	ユーザーのセキュリティ権限	[セキュリティ]
6	必要な修正を加えて[OK]をクリックすると、修正内容が保存され、ダイアログ ボックスが閉じます。	

メールボックスのエクスポート方法

はじめに

エクスポート機能を使用すると、メールボックスを XML ファイルの形式でエクスポートできます。エクスポートしたファイルは、別のコンピュータや Gentran:Server システムのメールボックス サーバー マネージャにインポートできます。

手順

メールボックスをエクスポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	エクスポートするメールボックスを右クリックし、ショートカットメニューから [エクスポート] を選択します。
2	メールボックスをエクスポートする XML ファイルの名前を入力するか、[参照] をクリックしてファイルの場所と名前を選択します。
3	[OK] をクリックします。 システムからの応答 メールボックスが XML ファイルにエクスポートされます。 参照 これで、そのファイルを別のコンピュータまたは Gentran:Server システム上のメールボックス サーバー マネージャにインポートできます。詳細については、「 メールボックスのインポート方法 」を参照してください。

メールボックスのインポート方法

はじめに

インポート機能を使用すると、以前に XML ファイルにエクスポートしたメールボックスを別のコンピュータまたは Gentran:Server システム上のメールボックスサーバー マネージャにインポートできます。

手順

メールボックスをインポートするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	以前にエクスポートしたメールボックスをインポートするコンピュータ/システム上のメールボックス ノードを右クリックし、ショートカット メニューから [インポート] を選択します。
2	[参照] をクリックして、インポートするファイルの場所と名前を選択します。
3	[OK] をクリックします。 システムからの応答 メールボックスがインポートされます。 メモ ファイル コピー メールボックスをインポートする場合は、インポート後に収集ディレクトリと抽出ディレクトリを手動で作成する必要があります。詳細については、「 ファイルシステム メールボックスの作成方法 」を参照してください。

リストの操作

目次

● 概要	2
● 配布先リストの作成方法	3
● 配布先リストの削除方法	5
● 受信者リストの作成方法	6

概要

本章の内容

本章では、以下の作業の手順について説明します

- ▶ 配布先リストの作成および削除
- ▶ 受信者リストの作成

主な用語

次の表に、本章で使用される主な用語を示します。

用語	説明
配布先リスト	メールボックスのグローバル リスト。配布先リストは、メールボックスのすべてのユーザーが使用できます。
受信者リスト	メッセージに関連付けられているメール アドレスのリスト。各ゲートウェイを介してメッセージを送信するときに使用する既定の受信者リストは、ファイルシステム ゲートウェイ メールボックスで設定できません。受信者リストには、配布先リスト、および第 1 受信者と第 2 受信者の情報を入れることができます。

配布先リストの作成方法

はじめに

メールボックス サーバーの機能の 1 つに、メール受信者のリストを作成する機能があります。配布先リストを使用すると、メッセージを多数のメールユーザーに同報配信することができます。

定義

配布先リストは、メールボックス サーバーのメールボックス リストです。このリストは、メッセージを 1 人の個人にではなく、アドレスのグループへ送信したい場合に使用します。

例

配布先リストの例を示します。

EDI 管理者 :

- ▶ Mike Xavier
- ▶ Jane Kennedy
- ▶ Emily Bennet

この例では、配布先リスト名は「EDI 管理者」です。このリストに対して送信されたメッセージは、メールボックス サーバーで作成した 3 つのメールボックスに転送されます。

使用する場合

配布先リストは、メッセージを複数のメールボックスに送信する際に使用します。

手順

配布先リストを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[配布先リスト] フォルダ アイコンを選択します。
3	右クリックして [作成] を選択します。 システムからの応答 [配布先リスト作成ウィザード] が表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
4	配布先リストの名前を入力して、[次へ] をクリックします。 システムからの応答 配布先リストの受信者を選択するためのダイアログ ボックスが表示されます。
5	配布先リストに追加するメールボックスのチェックボックスをオンにして、[完了] をクリックします。 メモ 複数のチェックボックスを選択することができます。
6	ステップ 5 で選択したメールボックスがゲートウェイかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none">▶ ゲートウェイである場合は、ステップ 5 で選択したゲートウェイ メールボックスの [E メール アドレス] ダイアログ ボックスが表示されます。テキスト ボックスに受信者の E メール アドレスを入力し、[追加] をクリックします。指定するすべての E メール アドレスについて、この手順を繰り返します。[OK] をクリックして、配布先リストへの受信者の追加を終了します。 メモ ステップ 5 で選択したゲートウェイ メールボックスごとに [E メール アドレス] ダイアログ ボックスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">▶ ゲートウェイでない場合は、[OK] をクリックして配布先リストへの受信者の追加を終了します。

配布先リストの削除方法

はじめに

このトピックでは、配布先リストをメールボックス サーバーから削除する方法について説明します。

使用する場合

配布先リストに記載されている受信者とのメッセージ交換が不要になった場合に、配布先リストを削除します。

手順

配布先リストを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[配布先リスト] フォルダ アイコンをダブルクリックして、リストを展開します。
3	削除する配布先リストを選択し、[削除] をクリックします。 システムからの応答 この配布先リストを削除してよいかどうかを確認するための確認ボックスが表示されます。
4	[はい] をクリックして、配布先リストを削除します。

受信者リストの作成方法

はじめに

受信者リストは、メッセージの配送先を指定するために使用します。通常、ファイルシステム ゲートウェイの収集プロパティを構成するときに、ファイルシステム ゲートウェイの受信者リストを作成します。ただし、受信者リストを後からファイルシステム ゲートウェイに追加することもできます。

使用する場合

ファイルシステム ゲートウェイ メールボックスのメッセージ受信者のリストを作成するときに、この手順を実行します。

始める前に

受信者リストを作成する前に、次のものを作成する必要があります。

- ▶ 受信者リストに含めるすべてのメールボックス
- ▶ 受信者リストに含めるすべての配送先リスト

手順

受信者リストを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[メールボックス]フォルダ アイコンをダブルクリックして、フォルダを開きます。 システムからの応答 メールボックスのリストが表示されます。
3	ファイルシステム メールボックスを選択します。
4	右クリックして[プロパティ]を選択します。 システムからの応答 [メールボックス プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[ゲートウェイ]タブを選択します。 システムからの応答 [メールボックス プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作
6	<p>[構成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [ファイルシステム ゲートウェイ プロパティ] ダイアログ ボックスの [収集] タブが表示されます。</p>
7	<p>[Collect Files into this folder] チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p> <p>メモ ファイルシステム ゲートウェイの収集プロパティを構成する手順についての詳細は、本書の「コミュニケーションズの構成」の「ファイルシステム メールボックスの作成方法」のステップ 13 を参照してください。</p>
8	<p>[受信者の編集] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [受信者の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
9	<p>受信者リストに含めるメールボックスアドレスまたは配送先リストを選択し、[To]、[CC]、または [BCC] をクリックして適切なリストへ移動します。</p> <p>メモ 間違えた場合には、そのアドレスまたは配布先リストを選択して [削除] をクリックします。</p>
10	<p>受信者リストへのアドレスおよび配布先リストの追加がすべて完了したら [OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [プロパティ] ダイアログボックスに戻ります。</p>
11	<p>[OK] をクリックします。</p>

配送ルール の 操作

目次

概要	2
▶ はじめに	2
▶ 配送ルール	3
▶ デリバリエージェント	6
EXE デリバリエージェント	7
▶ 概要	7
▶ VATPRINT ユーティリティ	10
▶ XPROCESS ユーティリティ	12
Xprocess DLL エージェント	19
▶ 概要	19
プロパティ	25
▶ 配送ルールのプロパティ	25
手順	28
▶ 配送ルールの使用方法	28
▶ 処理の順序の設定方法	31
▶ 配送ルールの編集方法	32
▶ 配送ルールの削除方法	33

概要

はじめに

本章の内容

本章では、メールボックス サーバーの配送ルールおよびデリバリ エージェントについて説明します。

主な用語

次の表に、本章で使用される主な用語を示します。

用語	説明
デリバリ エージェント	メールボックス サーバーのメッセージ処理を制御するツール。
配送ルール	メッセージの処理基準のリスト。

配送ルール

はじめに

このセクションでは、メールボックス サーバーの配送ルールの概要について説明します。

定義

配送ルールとは、メールボックスのメッセージに対して実行する処理の条件をまとめたものです。メッセージが配送ルールのすべての条件に適合する場合に、配送ルールで指定されたコマンドが実行されます。このコマンドにより、メッセージに添付されたアイテムに対するアクションが実行されます。

配送ルールを、送信メールボックスまたは受信メールボックスに連結することもできます。これにより、配送ルールは連結されたメールボックスのメッセージに対してのみ適用されます。

例

たとえば、メールボックス XYZ にはエンベロープに収められたアイテムを入力する必要があります。一方、メールボックス ABC からメールボックス XYZ に送信されるメッセージアイテムはエンベロープに収められていない場合を考えます。この場合、メールボックス ABC からメールボックス XYZ にルーティングされたアイテムに対してエンベロープ化プログラムを実行する配送ルールを作成する必要があります。作成した配送ルールをどちらのメールボックス (ABC または XYZ) で保持するかを決めて、適切なメールボックスに配送ルールを追加します。

配送ルールの条件

配送ルールを作成する際は、コマンドを実行する条件を指定する必要があります。次の条件を設定できます (複数指定可)。

- ▶ メッセージの送信時または受信時のどちらでコマンドを実行するか (必須)
- ▶ 送信メールボックスまたは受信メールボックスの名前 (オプション)
- ▶ 送信者または受信者の E メールアドレス (オプション)
- ▶ コンテンツ タイプ (オプション)
- ▶ 使用するデリバリー エージェント (必須)
- ▶ コマンド ライン パラメータ (必須)

(次のページへ続く)

複数の配送ルール

1つのメールボックスに対して複数の配送ルールを設定した場合は、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [配送ルール] タブにリストされている順番で配送ルールが適用されます。

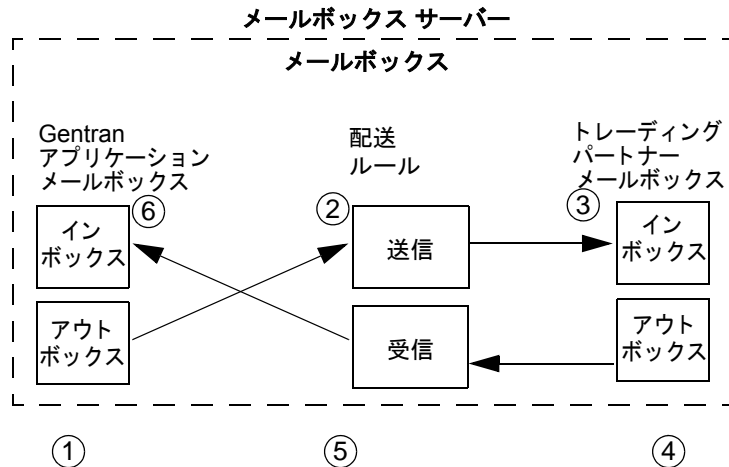
この場合、各配送ルールは、その前の配送ルールの出力に対して適用されます。つまり、2番目の配送ルールは1番目の配送ルールの出力に対して適用され、3番目の配送ルールは2番目の配送ルールの出力に対して適用されます。

参照

詳細については、この章の「[\[配送ルール\] タブ](#)」の図および「各部と機能」の表を参照してください。

配送ルールの図

次の図は、配送ルールがメールボックスに対してどのように作用するかを示したものです。図中の番号は、このセクションの「[配送ルールの説明](#)」に記載の表に対応しています。



メモ

上記の図では、配送ルールは Gentran アプリケーション メールボックスで作成されています。

(次のページへ続く)

配送ルールの説明

次の表では、配送ルールがメールボックスに対してどのように作用するかを説明します。表の各「段階」の番号は、「[配送ルールの図](#)」に記載の図に対応しています。

段階	説明
1	Gentran アプリケーション メールボックス内でメッセージが作成されます。配送ルールは作成済みで、このメールボックスに割り当てられています。
2	メッセージが Gentran アプリケーションの [アウト ボックス] からトレーディング パートナーの [イン ボックス] にルーティングされると、配送ルールで設定された基準に基づいてこのメッセージが検証されます。 配送ルールの条件が、このトレーディング パートナーへのメッセージ送信時に開始されるように定義されている場合、配送ルールが呼び出されてメッセージが処理されます。
3	修正されたメッセージが、トレーディング パートナーの [イン ボックス] に転送されます。
4	トレーディング パートナーの [アウト ボックス] にメッセージが作成されます。
5	メッセージがトレーディング パートナーの [アウト ボックス] から Gentran アプリケーションの [イン ボックス] にルーティングされると、配送ルールで設定された基準に基づいてこのメッセージが検証されます。配送ルールの条件が、このトレーディング パートナーからのメッセージ受信時に開始されるように定義されている場合、配送ルールが呼び出されてメッセージが処理されます。
6	修正されたメッセージが、Gentran アプリケーションの [イン ボックス] に転送されます。

**配送ルールの
コマンド ライン**

配送ルールで最も重要な要素は、送受信するメッセージに対して実行するコマンドです。実行するデリバリー エージェントに応じて、さまざまなコマンド ライン パラメータを設定します。

デリバリ エージェント

はじめに

デリバリ エージェントは、メールボックス サーバーで送受信されるメッセージの処理を実行するダイナミック リンク ライブラリ (DLL) です。

Gentran:Server デリバリ エージェント

Gentran:Server をインストールすると、次の 2 つのデリバリ エージェントが、メールボックスで使用する Gentran:Server の Bin フォルダにインストールされます。

- ▶ [EXE デリバリ エージェント](#)
- ▶ [Xprocess DLL エージェント](#)

本章では、これらのデリバリ エージェントについて説明します。

EXE デリバリエージェント

概要

はじめに

メールボックス サーバーに付属している EXE デリバリエージェントは、メールボックス サーバーでルーティングされたメッセージに対して実行される実行可能プログラムの起動を制御するためのものです。実行可能プログラムは、メールボックス サーバーで送受信されたメッセージに、さらに処理を加えるために使用します。これらの実行可能プログラムを起動するには、特定のメールボックスの配送ルールを作成します。

EXE デリバリエージェントの動作

EXE デリバリエージェントは、配送ルール基準を満たす各メッセージについて、メッセージの添付をファイルに書き込み、配送ルールで定義されている実行可能プログラムを呼び出してから、実行可能プログラムの出力を添付メッセージに書き戻します。

シンタックス

EXE デリバリエージェントを使用する際は、次のようなシンタックスで配送ルールのコマンドラインパラメータを指定します。

```
/i InputFileName /o OutputFileName /d WorkingDirectory EXE RealParms
```

配送ルールトークン

Gentran:Server では、EXE デリバリエージェントに使用できる代替トークンがいくつか用意されています。次の表に、代替トークンをまとめます。

注意

トークン名では、大文字と小文字が区別されます。「\$Input」ではなく「\$input」と入力した場合、その入力ファイル名は正しく認識されません。

参照

詳細については、この章の「[EXE デリバリエージェント](#)」を参照してください。

トークン	説明
\$Input	入力のファイル名を格納します。
\$Output	出力のファイル名を格納します。
\$Dir	作業用ディレクトリ名を格納します。
\$Filename	添付の元のファイル名を格納します。

(次のページへ続く)

トークン	説明
\$SenderName	送信者のメールボックスの名前を格納します。
\$SenderEMail	<p>送信者の E メールアドレスを格納します。 \$SenderEMail は、ゲートウェイの E メールアドレスおよびメールボックスの 2 つの部分から構成されます。2 つの部分は、記号 "->" で区切られます。</p> <p>例 たとえば、システムが MAPI ゲートウェイを使用するように構成されているとします。MAPI ゲートウェイメールボックスの名前は「Exchange Server (NTDC)」です。ここで、E メールアドレスが「XCHG_NTDC」、MAPI 受信者が joes@stercomm.com である場合、\$SenderEMail は次のようになります。 joes@stercomm.com->XCHG_NTDC</p>

コマンドライン パラメータ

次の表に、配送ルールのコマンドラインパラメータをまとめます。

パラメータ	説明
/i InputFileName	コマンドへの入力として使用するファイルの名前を指定します。このパラメータはオプションです。このパラメータを省略した場合は、添付データ用の一時ファイル名がデリバリ エージェントによって生成されます。InputFileName 変数の代わりに、配送ルールトークンを使用することもできます。
/o OutputFileName	コマンドからの出力に使用するファイルの名前を指定します。このパラメータはオプションです。このパラメータを省略した場合は、添付データ用の一時ファイル名がデリバリ エージェントによって生成されます。OutputFileName 変数の代わりに、配送ルールトークンを使用することもできます。
/d WorkingDirectory	実行可能プログラムを実行するディレクトリを指定します。このパラメータはオプションです。このパラメータを省略した場合は、実行可能プログラムは Gentran:Server の Bin フォルダで実行されます。WorkingDirectory 変数の代わりに、配送ルールトークンを使用することもできます。

(次のページへ続く)

パラメータ	説明
EXE	実行可能コマンドの名前を指定します。バッチ ファイルまたはコンパイル済み実行可能プログラムのいずれかを指定できます。 例 program.exe batchfile.bat
RealParms	実行可能プログラムで必要となるパラメータのリストを指定します。

例

XPROCESS ユーティリティを使用する配送ルールのコマンドラインの例は、次のようになります。

```
/o $Input XPROCESS.EXE -0 0x00 0x7E $Input
```

この例では、行末の `$Input` トークンで指定されたファイルを開き、XPROCESS ユーティリティを使用して NULL 文字 (16 進数 `0x00`) をチルダ (~) 記号 (16 進数 `0x7E`) に変換しています。この操作の結果は、`/o` パラメータでの指定によって、`$Input` トークンで指定されたファイルにそのまま出力されます。

参照

詳細については、この章の「[XPROCESS ユーティリティ](#)」を参照してください。

VATPRINT ユーティリティ

はじめに

VATPRINT ユーティリティは、TRADACOMS データまたは UK EDIFACT データの送受信時に、VAT (付加価値税) 伝送レポートを生成するために使用する外部データプロセッサです。このレポートは、UK Customs and Excise および UK Article Number Association (ANA) で定義されたフォーマットで生成されます。VATPRINT ユーティリティは、配送ルールのコマンドラインで呼び出します。

シンタックス

VATPRINT ユーティリティのシンタックスは次のとおりです。

```
VATPRINT [option] [Print_filename] [Attachment_filename]
```

パラメータ

VATPRINT ユーティリティでは、次のパラメータを指定します。

パラメータ	説明
Option	/p レポートをプリンタに印刷します。 /f レポートをファイルに出力します。
Print_filename	出力 (作成または追加) 先となるファイルの名前を指定します。/f オプションの場合にのみ使用します。Print_filename にアスタリスク (*) を含めると、その部分が YYYYMMDDHHMMSS 形式の現在の日時で置き換えられます。
Attachment_filename	VAT レポートに使用する EDI メッセージが格納されているファイルの名前を指定します。デリバリエージェントを使用する場合は \$Input を指定します。これにより、デリバリエージェントが実行されるたびに、その時点で処理しているファイルの名前が添付ファイル名となります。

メモ

VAT レポートを直接プリンタに出力するオプションは、スタンドアロン操作の場合にのみ使用できます。配送ルール内では使用できません。

(次のページへ続く)

例

この例では、英国のトレーディング パートナーである Interoffice Ltd. からの VAT レポートを生成します。同社は、UK EDIFACT 標準を使用しています。この場合、Interoffice に割り当てるメールボックスで配送ルールを作成します。これにより、Interoffice から Gentrans アプリケーション メールボックスにメッセージが送信されると、VAT レポートが生成されて C:\¥Reports フォルダ内のファイルに追加されます。

配送ルールのコマンド ラインは、次のようになります。

```
/o $Input VATPRINT.EXE /f C:\¥Reports\¥VATreport.txt $Input
```

エラーの処理

VATPRINT ユーティリティでは、発生したエラーが Vat.err というファイルに記録されます。このファイルは、メールボックス サーバーがインストールされているディレクトリの bin フォルダに格納されています。エラーには日付と時刻が記録されます。最も新しいエラーがファイルの最後に記録されます。

XPROCESS ユーティリティ

はじめに

XPROCESS ユーティリティは、データの送受信時に使用する外部データプロセッサです。通常、トレーディングパートナーとの間でデータを送受信できるように準備する場合に使用します。XPROCESS ユーティリティは、配送ルールのコマンドラインで呼び出します。

例

トレーディングパートナーが使用する VAN では、データの各行がキャリッジリターンとラインフィードで終了していることが想定されています。しかし、こちらのデータはチルダ (~) 記号で終わっています。そこで、XPROCESS ユーティリティを使用して、このチルダ記号をキャリッジリターン/ラインフィードに変換します。

メモ

最近 Gentran:Server を購入した場合は、類似の機能を持つ Xprocess DLL エージェントを使用することをお勧めします。

シンタックス

XPROCESS ユーティリティのシンタックスは次のとおりです。

```
XPROCESS [option] [Parameter1] [Parameter2] [Parameter3]
```

パラメータ

XPROCESS ユーティリティでは、次のオプションパラメータを使用できます。

メモ

<filename> パラメータを使用する場合は、完全パスとファイル名を指定する必要があります。ただし、EXE デリバリ エージェントを使用してこのユーティリティを呼び出した場合は、この指定は不要です。この場合に必要となるのは、ファイル名を表す \$Filename トークンのみです。

オプション	説明
-0	指定された 16 進文字 [hexValue1] を別の 16 進文字 [hexValue2] に変換します。 使用法 xprocess -0 <hexValue1> <hexValue2> <filename>
-1	[ファイル名] に指定したファイルをデータの先頭に追加します。このオプションは、データを AT&T GMS ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。 使用法 xprocess -1 <inputfile1> <inputfile2> <outputfile>

(次のページへ続く)

(続き) オプション	説明
-2	<p>チルダ、キャリッジリターン、およびラインフィードを1つのキャリッジリターンで置き換えます。このオプションは、データを GEIS ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 xprocess -2 <filename></p>
-3	<p>すべてのキャリッジリターンをチルダで置き換え、すべてのラインフィードを削除します。このオプションは、GEIS ネットワークからデータを受信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 xprocess -3 <filename></p>
-4	<p>すべてのキャリッジリターンとラインフィードを削除します。</p> <p>使用法 xprocess -4 <filename></p>
-5	<p>すべてのキャリッジリターンとラインフィードを削除し、ファイルの最後に 16 進文字 0x1A を 1 つ追加します。このオプションは、TDSI ネットワーク用のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 xprocess -5 <filename></p>
-6	<p>16 進文字 0x1A をすべて削除します。このオプションは、TDSI ネットワーク用のプリポストプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 xprocess -6 <filename></p>
-7	<p>GM ヘッダーおよびトレーラレコードを追加して、すべてのキャリッジリターンおよびラインフィードを削除します。このオプションは、GM 用のプリプロセッサとして使用します。ヘッダー用に THS および THD セグメント、トレーラ用に TTR が作成されます。</p> <p>使用法 xprocess -7 <youruserid> <theiruserid> <fileonGMsystem></p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) オプション	説明
-8	<p>チルダ、キャリッジリターン、およびラインフィードを1つのキャリッジリターンで置き換えます。このオプションは、データを MCI ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 xprocess -8 <filename></p>
-9	<p>すべてのラインフィードを1つのチルダで置き換えます。このオプションは、MCI ネットワークからデータを受信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 xprocess -9 <filename></p>
-10	<p>すべてのキャリッジリターンをキャリッジリターン/ラインフィードで置き換えます。このオプションは、COMMERCE:Network からファイルを受信する際に使用します。</p> <p>使用法 xprocess -10 <filename></p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) オプション	説明
-11	<p>16 進文字列を、2 番目に指定した 16 進文字列で置き換えます。</p> <p>使用法 <code>xprocess -11 <16 進文字列 1> <16 進文字列 2> <filename></code></p> <p>メモ 各 16 進文字列には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進数が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進数を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p>例 1 オプション -11 を使用したコマンド ラインの例を示します。このコマンドを実行すると、すべての ~CRLF が ~(チルダ) に変換されます。</p> <p><code>c:\gensrvnt\bin\xprocess.exe -11 0x7e0x0d0x0a 0x7e inputfile.txt</code></p> <p>この例では、1 番目の文字列に 3 つの 16 進文字 (0x7e、0x0d、および 0x0a) が含まれており、2 番目の文字列に 1 つの 16 進文字 (0x7e) が含まれています。また、入力ファイルの名前として inputfile.txt が指定されています。</p> <p>例 2 実行時に EXE デリバリ エージェントを使用する場合のコマンド ラインの例を示します。このコマンドを実行すると、すべての ~CRLF が ~(チルダ) に変換されます。</p> <p><code>/o \$Input c:\gensrvnt\bin\xprocess.exe -11 0x7e0x0d0x0a 0x7e \$Input</code></p> <p>この例では、1 番目の文字列に 3 つの 16 進文字 (0x7e、0x0d、および 0x0a) が含まれており、2 番目の文字列に 1 つの 16 進文字 (0x7e) が含まれています。\$Input トークンによって、入力ファイルの名前が指定されています。</p>
-12	<p>指定した 16 進文字列のすべてをファイルから削除します。</p> <p>使用法 <code>xprocess -12 <16 進文字列 > <filename></code></p>
-13	<p>[Nbr Bytes] に指定した増分で、16 進文字列を入力ファイルに挿入します。</p> <p>このオプションは、ストリーム化された EDI データのブロックなどに使用します。</p> <p>使用法 <code>xprocess -13 <NbrBytes> <HexStringToInsert> <InputFile></code></p>

(次のページへ続く)



追加パラメータ

次の表に、XPROCESS ユーティリティの追加パラメータをまとめます。

パラメータ	説明
hexValue1	<p>0x?? 形式の 16 進数です。このパラメータは、「パラメータ」の表で説明したオプション -0 で、データ内で置き換える文字を指定するために使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p>
hexValue2	<p>0x?? 形式の 16 進数です。このパラメータは、「パラメータ」の表で説明したオプション -0 で、hexValue1 を置き換える文字を指定するために使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p>
16 進文字列 1	<p>0x??0x??... 形式の 16 進文字列です。このパラメータは、「パラメータ」で説明したオプション -11 で使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p> <p>メモ 各 16 進数には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進数が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進数を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p>例 0x7e0x0d0x0a</p> <p>この例は、3 つの 16 進文字を含む 16 進文字列を表しています。</p>
16 進文字列 2	<p>0x??0x??... 形式の 16 進文字列です。このパラメータは、「パラメータ」で説明したオプション -11 で使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p> <p>メモ 各 16 進数には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進数が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進数を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p>例 0x7e0x0d0x0a</p> <p>この例は、3 つの 16 進文字を含む 16 進文字列を表しています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

パラメータ	説明
filename	XPROCESS を実行するファイルの名前を指定します。この filename は、コマンドラインから XPROCESS を実行する場合にのみ使用されます。配送ルール内で XPROCESS を使用している場合は、filename を含める必要はありません。filename は、メールボックスサーバーによって自動的に渡されます。
NbrBytes	16 進文字列を挿入する際の既定の増分を指定します。このパラメータは、「 パラメータ 」の表で説明したオプション -13 で使用します。
HexStringToInsert	既定の増分で挿入する 16 進文字列を指定します。このパラメータは、「 パラメータ 」の表で説明したオプション -13 で使用します。

例 1

この例では、トレーディング パートナーから、セグメント ターミネータとして NULL 文字を使用するファイルが送信されてきた場合を説明します。Gentran:Server では、セグメント ターミネータとしてチルダ (~) 記号が使用されることを想定しています。

元のデータ

```
ISA*00*                                *00*                                *08*9275310000
*12*5088947000334
*970812*1133*U*00304*000000132*0*P*><null>GS*GP*001677954*50
88947000334*9
70812*1133*83*T*003040UCS<null>ST*880*000830001<null>
```

配送ルールのコマンドライン

次のコマンドラインで、NULL 文字 (16 進数 0x00) をチルダ記号 (16 進数 0x7E) で置き換えます。

```
/o $Input XPROCESS.EXE -0 0x00 0x7E $Input
```

修正後のデータ

```
ISA*00*                                *00*                                *08*9275310000
*12*5088947000334
*970812*1133*U*00304*000000132*0*P*>~GS*GP*001677954*5088947
000334*9
70812*1133*83*T*003040UCS~ST*880*000830001~
```

(次のページへ続く)



例 2

この例では、トレーディング パートナーから、エレメント セパレータとしてスラッシュ (/) を使用するファイルが送信されてきた場合を説明します。

Gentran:Server では、エレメント セパレータとしてアスタリスク (*) が使用されることが想定されています。

元のデータ

```
ISA/00/ /00/ /08/9275310000 /12/  
5088947000334 /970812/1133/U/00304/000000132/0/P/>~GS/GP/  
001677954/5088947000334/9  
70812/1133/83/T/003040UCS~ST/880/000830001~
```

配送ルールのコマンド ライン

次のコマンド ラインで、スラッシュ文字 (16 進数 0x5C) をアスタリスク (16 進数 0x2A) で置き換えます。

```
/o $Input XPROCESS.EXE -0 0x5C 0x2A $Input
```

修正後のデータ

```
ISA*00* *00* *08*9275310000  
*12*5088947000334  
*970812*1133*U*00304*000000132*0*P*>~GS*GP*001677954*5088947  
000334*9  
70812*1133*83*T*003040UCS~ST*880*000830001~
```

Xprocess DLL エージェント

概要

はじめに

Xprocess DLL エージェントは Gentran:Server に付属しており、トレーディングパートナーとの間で送受信するデータを準備するために使用します。Xprocess DLL エージェントを呼び出すには、[配送ルールの編集] ダイアログ ボックスの [エージェント] リストからエージェントを選択し、特定のコマンド ライン パラメータを入力します。

Xprocess DLL エージェントの動作

Xprocess DLL エージェントは、配送ルール基準を満たす全メッセージについて、ソース メッセージの添付を開き、定義されたオプションに従ってデータを変換してから、出力を新しいメッセージの添付に書き込みます。

オプション番号パラメータ

次の表に、Xprocess DLL エージェントで使用可能なコマンド ライン オプションを示します。

メモ

<filename> パラメータを使用する場合、ファイル名だけでなく完全パスを指定する必要があります。

オプション	説明
0	<p>指定された 16 進文字 [hexValue1] を別の 16 進文字 [hexValue2] に変換します。</p> <p>使用法 0 <hexValue1> <hexValue2></p> <p>例 コマンド ライン オプション 0 の例を示します。 0 0x0D 0x0A</p> <p>この例では、16 進数 0x0D (キャリッジリターン) を 16 進数 0x0A (ラインフィード) に変換しています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) オプション	説明
1	<p>[inputFileToAppend] に指定したファイルをデータの先頭に追加します。このオプションは、データを AT&T GMS ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 1 <inputFileToAppend></p> <p>例 コマンド ライン オプション 1 の例を示します。 1 c:\file_directory\filename.txt</p>
2	<p>チルダ、キャリッジリターン、およびラインフィードを1つのキャリッジリターンで置き換えます。このオプションは、データを GEIS ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 2</p>
3	<p>すべてのキャリッジリターンをチルダで置き換え、すべてのラインフィードを削除します。このオプションは、GEIS ネットワークからデータを受信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 3</p>
4	<p>すべてのキャリッジリターンとラインフィードを削除します。</p> <p>使用法 4</p>
5	<p>すべてのキャリッジリターンとラインフィードを削除し、ファイルの最後に 16 進文字 0x1A を 1 つ追加します。このオプションは、TDSI ネットワーク用のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 5</p>
6	<p>16 進文字 0x1A をすべて削除します。このオプションは、TDSI ネットワーク用のプリポストプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 6</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) オプション	説明
7	<p>GM ヘッダーおよびトレーラ レコードを追加して、すべてのキャリッジリターンおよびラインフィードを削除します。このオプションは、GM 用のプリプロセッサとして使用します。ヘッダー用に THS および THD セグメント、トレーラ用に TTR が作成されます。</p> <p>使用法 7 <youruserid> <theiruserid> <fileonGMsystem></p>
8	<p>チルダ、キャリッジリターン、およびラインフィードを1つのラインフィードで置き換えます。このオプションは、データを MCI ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 8</p>
9	<p>すべてのラインフィードを1つのチルダ記号で置き換えます。このオプションは、MCI ネットワークからデータを受信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p>使用法 9</p>
10	<p>すべてのキャリッジリターンをキャリッジリターン/ラインフィードで置き換えます。このオプションは、COMMERCE:Network からファイルを受信する際に使用します。</p> <p>使用法 10</p>
11	<p>16 進文字列を、2 番目に指定した 16 進文字列で置き換えます。</p> <p>メモ 各 16 進数には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進数が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進数を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p>使用法 11 <16 進文字列 1> <16 進文字列 2></p> <p>例 コマンド ライン オプション 11 の例を示します。 11 0x7e0x0d0x0a 0x7e</p> <p>この例では、1 番目の文字列は次の 3 つの 16 進文字から成りません。(0x7e,0x0d, and 0x0a)。一方、2 番目の文字列は 1 つの 16 進文字 (0x7e) から成ります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



(続き) オプション	説明
12	<p>指定した 16 進文字列のすべてをファイルから削除します。</p> <p>使用法 12 <StringToDrop></p> <p>例 コマンド ライン オプション 12 の例を示します。 12 0x??0x??0x??</p>
13	<p>[Nbr Bytes] に指定した増分で 16 進文字列を入力ファイルに挿入します。</p> <p>このオプションは、ストリーム化された EDI データのブロックなどに使用します。</p> <p>使用法 13 <NbrBytes> <HexStringToInsert></p> <p>例 コマンド ライン オプション 13 の例を示します。 13 4 0x??0x??0x??...</p>

追加パラメータ

次の表に、Xprocess DLL エージェントで使用する追加パラメータをまとめます。

パラメータ	説明
hexValue1	<p>0x?? 形式の 16 進数です。このパラメータは、「オプション番号パラメータ」の表で説明したオプション 0 で、データ内で置き換える文字を指定するために使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p>
hexValue2	<p>0x?? 形式の 16 進数です。このパラメータは、「オプション番号パラメータ」の表で説明したオプション 0 で、hexValue1 を置き換える文字を指定するために使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

パラメータ	説明
16 進文字列 1	<p>0x??0x??... 形式の 16 進文字列です。このパラメータは、「オプション番号パラメータ」の表で説明したオプション 11 で使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p> <p>メモ 各 16 進数には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進数が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進数を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p>例 0x7e0x0d0x0a</p> <p>この例は、3 つの 16 進文字を含む 16 進文字列を表しています。</p>
16 進文字列 2	<p>0x??0x??... 形式の 16 進文字列です。このパラメータは、「オプション番号パラメータ」の表で説明したオプション 11 で使用します。</p> <p>コメント：ここで、?? は任意の 16 進数を表します。</p> <p>メモ 各 16 進数には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進数が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進数を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p>例 0x7e0x0d0x0a</p> <p>この例は、3 つの 16 進文字を含む 16 進文字列を表しています。</p>
inputFileToAppend	<p>filename 値を指定します。このパラメータは、「オプション番号パラメータ」の表で説明したオプション 1 で、データの先頭に追加するファイルを指定するために使用します。このパラメータを使用する場合は、完全パス名を指定する必要があります。</p>
StringToDrop	<p>16 進文字列を指定します。このパラメータは、「オプション番号パラメータ」の表で説明したオプション 12 で、ファイルから削除する 16 進文字列を指定するために使用します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

パラメータ	説明
NbrBytes	16 進文字列を挿入する際の既定の増分を指定します。このパラメータは、「 オプション番号パラメータ 」の表で説明したオプション 13 で使用します。
HexStringToInsert	既定の増分で挿入する 16 進文字列を指定します。このパラメータは、「 オプション番号パラメータ 」の表で説明したオプション 13 で使用します。

プロパティ

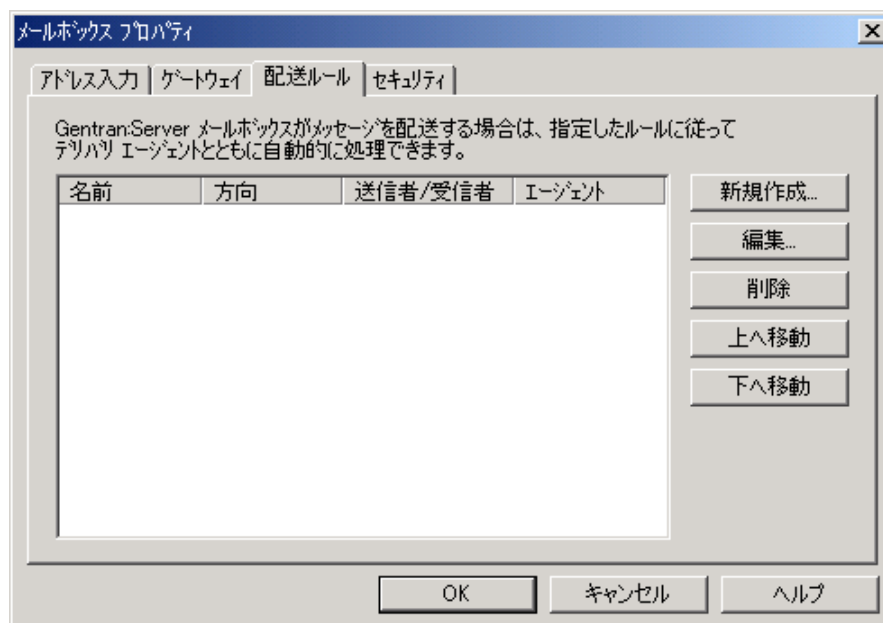
配送ルール の プロパティ

はじめに

このセクションでは、[配送ルール] ダイアログ ボックスの各部分とその機能について説明します。

[配送ルール] タブ

次の図に、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [配送ルール] タブの例を示します。



各部と機能

次の表に、[配送ルール] タブの各部の機能をまとめます。

各部	機能
名前	配送ルール の 名前を定義します。
方向	メッセージの送信時または受信時のどちらでルールを実行するかを指定します。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
送信者 / 受信者	送信者または受信者のメールボックスを指定します。メールボックス名とは別にメール アドレスを指定できます。
エージェント	実行するデリバリ エージェントの名前を指定します。
新規作成	新しい配送ルールを作成します。
編集	既存の配送ルールを編集します。
削除	配送ルールを削除します。
上へ移動	選択されている配送ルールの処理順序を 1 つ上へ移動します。
下へ移動	選択されている配送ルールの処理順序を 1 つ下へ移動します。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を取り消します。
ヘルプ	オンライン ヘルプ システムを表示します。

[配送ルールの編集] ダイアログ ボックス

次の図に、[配送ルールの編集] ダイアログ ボックスの例を示します。

(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、配送ルールの [配送ルールの編集] ダイアログ ボックスの各部分およびその機能をまとめます。

各部	機能
ルール名	配送ルールの名前を指定します。
このルールを実行する場合、	このメールボックスでメッセージを送受信したときにルールを実行するかどうかを指定します。
受信者が	<i>is</i> または <i>is not</i> の条件を選択します。選択した条件が、この条件の後に続く E メール アドレスおよびメールボックス名に適用されます。
E メール名 ([受信者が] リストの右側のテキストボックス)	送信者または受信者のメールボックスの代用名または参照名 (E メール アドレスなど) を指定します。
位置	送信者または受信者のメールボックスの名前を選択します。
コンテンツ タイプが	配送の条件として、特定のコンテンツ タイプを設定します。
デリバリー エージェントを使う	配送ルールを解釈してコマンドを実行するデリバリー エージェントの名前を選択します。
エージェントで使用するコマンドライン	メッセージが配送ルールの条件に適合する場合に実行されるコマンドを指定します。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を取り消します。
ヘルプ	オンライン ヘルプ システムを表示します。

手順

配送ルールの使用法

はじめに

配送ルールを使用すると、メッセージが特定の基準に適合する場合に、そのメッセージに対して実行可能プログラムが実行されるように設定できます。

始める前に

配送ルールをメールボックスに関連付ける前に、デリバリ エージェントをインストールしておく必要があります。

重要な検討事項

配送ルールをどのように管理するかによって、配送ルールの定義方法は異なります。すべての配送ルールを **Gentran アプリケーション メールボックス** に作成し、特定のトレーディング パートナーの場合にのみルールが呼び出されるように基準を設定できます。または、トレーディング パートナーの各メールボックスに配送ルールを作成することもできます。

例 1

トレーディング パートナーのメールボックスに対する配送ルールを作成し、**Gentran アプリケーション メールボックス** とのメッセージ送受信時にルールが呼び出されるようにします。

例 2

Gentran アプリケーション メールボックス に、配送ルールを作成します。この配送ルールの基準を定義するとき、特定のトレーディング パートナーとのメッセージ送受信時にルールが呼び出されるように指定します。

手順

配送ルールをメールボックスに関連付けるには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[メールボックス] フォルダ アイコンをダブルクリックして、メールボックスを表示します。
3	配送ルールを追加するメールボックスを選択します。

(次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
4	右クリックして [プロパティ] を選択します。 システムからの応答 [メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。	
5	[配送ルール] タブを選択します。	
6	[新規作成] をクリックして、新規の配送ルールを作成します。 システムからの応答 [配送ルールの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。	
7	[ルール名] ボックスに、一意の名前を入力します。	
8	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択する項目
	このメールボックスから別のメールボックスにメッセージを送信するときに、このルールを実行する	[このルールを実行する場合、] リストから [送信中] を選択します。
ほかのメールボックスからメッセージを受信するときに、このルールを実行する	[このルールを実行する場合、] リストから [受信中] を選択します。	
9	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	このルールの実行対象	手順
	特定のメールボックス	ステップ 10 に進みます。
	すべてのメールボックス	ステップ 11 に進みます。
10	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択する項目
	特定のメールボックスで送受信されたメッセージに対して、このルールを実行する	[送信者が、] リストから [is] を選択します。
	特定のメールボックスで送受信されたメッセージを除く、すべてのメッセージに対して、このルールを実行する	[送信者が、] リストから [is not] を選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
11	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	このルールの実行対象	手順
	メールボックス上の特定の E メール アドレス	[送信者が、] リストの右側のボックスに E メール アドレスを入力し、[位置] リストからメールボックスを選択します。
	すべての E メール アドレス	[送信者が、] ボックスの右側のボックスを空白のままにします。次のステップに進みます。
12	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	このルールの実行対象	手順
	特定のメールボックス内のすべてのメッセージ	[位置] リストから適切なメールボックスを選択します。
	すべてのメッセージ	このフィールドを空白のままにします。
13	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	このルールの実行対象	手順
	特定のコンテンツ タイプ	[コンテンツ タイプが] ボックスにコンテンツ タイプを入力します。
	すべてのコンテンツ タイプ	このフィールドを空白のままにします。
14	デリバリ エージェントを選択します。 メモ EXE デリバリ エージェントおよび Xprocess DLL エージェントは、Gentran:Server に付属しています。	
15	ルールの実行時にデリバリ エージェントに渡すコマンド ラインパラメータを入力します。	
16	[OK] をクリックします。ルールが保存され、[メールボックスプロパティ] ダイアログ ボックスの [配送ルール] タブに戻ります。	
17	[OK] をクリックして変更内容を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。	

処理の順序の設定方法

はじめに

1つのメールボックスに複数の配送ルールが関連付けられている場合は、配送ルールを処理する順序を設定できます。

手順

デリバリ エージェントが配送ルールを処理する順序を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[メールボックス]フォルダ アイコンを展開して、メールボックスを表示します。
3	配送ルールを関連付けるメールボックスを選択します。
4	右クリックして[プロパティ]を選択します。 システムからの応答 [メールボックス プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[配送ルール] タブを選択します。
6	リスト内の順番を変更する配送ルールを選択し、[上へ移動]または[下へ移動]をクリックします。 システムからの応答 リスト内の配送ルールの位置が変更されます。
7	ステップ 6 を繰り返して、適切な順序に並び替えます。
8	[OK] をクリックして変更内容を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

配送ルールの編集方法

はじめに

このセクションでは、配送ルールの編集方法について説明します。

手順

配送ルールを編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[メールボックス]フォルダ アイコンをダブルクリックして、メールボックスを表示します。
3	配送ルールが関連付けられているメールボックスを選択します。
4	右クリックして[プロパティ]を選択します。 システムからの応答 [メールボックス プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[配送ルール] タブを選択します。 システムからの応答 このメールボックスの配送ルールが表示されます。
6	編集する配送ルールを選択し、[編集] をクリックします。 システムからの応答 [配送ルールの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
7	ダイアログ ボックス内のオプションを変更します。
8	[OK] をクリックします。変更内容が保存され、[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスの [配送ルール] タブに戻ります。
9	[OK] をクリックして変更内容を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

配送ルール の 削除方法

はじめに

不要になった配送ルールは削除できます。

手順

配送ルールを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[メールボックス]フォルダ アイコンをダブルクリックして、メールボックスを表示します。
3	配送ルールが関連付けられているメールボックスを選択します。
4	右クリックして[プロパティ]を選択します。 システムからの応答 [メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[配送ルール] タブを選択します。 システムからの応答 このメールボックスの配送ルールが表示されます。
6	削除する配送ルールを選択し、[削除] をクリックします。 システムからの応答 配送ルールが削除されます。
7	[OK] をクリックして変更内容を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

メッセージの操作

目次

概要	2
▶ はじめに	2
メッセージのフィルタ操作	3
▶ 概要	3
プロパティ	5
▶ システム ブラウザ フィルタ	5
▶ システム ブラウザ	7
▶ [フィルタ] ダイアログ ボックス	9
▶ フィルタ ブラウザ	11
手順	13
▶ メッセージの表示方法	13
▶ メッセージの添付の表示方法	15
▶ 全メールボックスのフィルタ プロパティの設定方法	17
▶ 特定メールボックスのフィルタ プロパティの設定方法	18
▶ メールボックス メッセージの削除方法	19
▶ 削除したメッセージの復元方法	20

概要

はじめに

本章の内容

本章では、メールボックス メッセージに関連する共通機能の実行方法など、メールボックス サーバーのフィルタ機能について説明します。

主な用語

次の表は、本章で使用される主な用語の説明です。

用語	説明
添付	メッセージに添付されるドキュメントなどのアイテム。
フィルタ	メッセージの表示基準を設定する機能。
フィルタ ブラウザ	選択したメッセージの [インボックス]、[アウトボックス]、または [ごみ箱] コンテナに事前に定義した基準に一致するメッセージが表示されるブラウザ。
システム ブラウザ	事前に定義した基準に一致するすべてのメールボックス メッセージが表示されるブラウザ。

メッセージのフィルタ操作

概要

はじめに

メッセージのフィルタ操作によって、メールボックス サーバーにメッセージを表示する基準を選択できます。

目的

メッセージのフィルタ操作では、表示するメッセージおよび添付の数を制限できます。これにより、追跡するメッセージを簡単に探すことができます。

参照

インバウンド メッセージおよびアウトバウンド メッセージの追跡については、本書の「[メッセージの追跡](#)」を参照してください。

フィルタの種類

メールボックス サーバーには、次の 2 種類のメッセージ表示フィルタが用意されています。

- ▶ システム全体 — システム ブラウザ フィルタを使用すると、複数のメールボックスの情報を 1 つのブラウザに表示するための基準を定義できます。

参照

詳細については、本章の「[フィルタブラウザの種類](#)」、「[システムブラウザ フィルタ](#)」、および「[システムブラウザ](#)」を参照してください。

- ▶ 個別のメールボックスレベル — [フィルタ] ダイアログ ボックスを使用すると、1 つのメールボックスの [インボックス]、[アウトボックス]、または [ごみ箱] コンテナの情報を、1 つのブラウザに表示するための基準を定義できます。

参照

詳細については、本章の「[フィルタブラウザの種類](#)」、「[\[フィルタ\] ダイアログ ボックス](#)」、および「[フィルタブラウザ](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

フィルタ ブラウザの種類

メールボックス サーバーには、以下の2種類のフィルタ ブラウザが用意されています。

- ◆ システム ブラウザ — 複数のメールボックス メッセージのメッセージ情報を表示できます。情報は、[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスで定義した基準に基づいて表示されます。

参照

詳細については、本章の「[フィルタの種類](#)」、「[システム ブラウザ フィルタ](#)」、および「[システム ブラウザ](#)」を参照してください。

- ◆ フィルタ ブラウザ — 1つのメールボックスのイン ボックス、アウト ボックス、またはごみ箱コンテナのメッセージ情報を表示できます。情報は、[フィルタ] ダイアログ ボックスで定義した基準に基づいて表示されます。

参照

- ◆ 詳細については、本章の「[フィルタの種類](#)」、「[\[フィルタ\] ダイアログ ボックス](#)」、および「[フィルタ ブラウザ](#)」を参照してください。

ブラウザのリフレッシュ

ブラウザのリフレッシュ機能を使用すると、アクティブなブラウザに最新の情報を表示できます。ブラウザの表示をリフレッシュするには、次のいずれかの操作を行います。

- ◆ **F5** を押します。
 - ◆ メールボックス サーバーの [表示] メニューから [リフレッシュ] を選択します。
-

プロパティ

システム ブラウザ フィルタ

はじめに

このセクションでは、システム全体のメッセージのフィルタ操作について説明します。

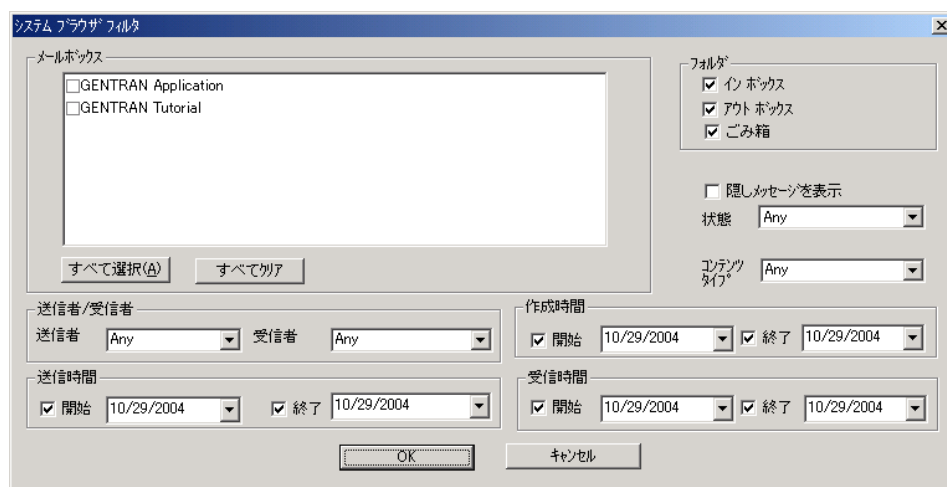
アクセス方法

[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスを開くには、次の手順に従います。

- ▶ [メールボックス] フォルダ アイコンを右クリックし、[フィルタ付きで開く] オプションを選択します。

システム ブラウザ フィルタ

次の図に、[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスの例を示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスの各部の機能をまとめます。

各部	機能
メールボックス	メッセージを表示する各メールボックスを指定します。
フォルダ	メッセージを表示するフォルダを指定します。
隠しメッセージを表示	ゲートウェイおよびメールボックスのプロパティの保存に使用する非表示(隠し)メッセージを、ブラウザに表示するかどうかを指定します。
状態	表示するメッセージの状態を指定します。複数の状態を選択できます。
コンテンツタイプ	指定したコンテンツ タイプのメッセージのみをフィルタして表示できます。コンテンツ タイプをボックスに入力するか、リストから選択します。
送信者	指定した送信者からのメッセージのみをフィルタして表示できます。
受信者	指定した受信者へのメッセージのみをフィルタして表示できます。
作成時間	<p>カレンダー ドロップダウン リストで指定した [開始] および [終了] の間に作成されたメッセージのみをフィルタして表示できます。</p> <p>[開始] および [終了] オプションを使用して、メッセージが作成された期間を指定できます。</p>
送信時間	<p>カレンダー ドロップダウン リストで指定した [開始] および [終了] の間に送信されたメッセージのみをフィルタして表示できます。</p> <p>[開始] および [終了] オプションを使用して、メッセージが送信された期間を指定できます。</p>
受信時間	<p>カレンダー ドロップダウン リストで指定した [開始] および [終了] の間に受信されたメッセージのみをフィルタして表示できます。</p> <p>[開始] および [終了] オプションを使用して、メッセージが受信された期間を指定できます。</p>
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

システム ブラウザ

はじめに

システム ブラウザには、[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に基づいて情報が表示されます。このブラウザでは、複数のメールボックスのメッセージを1つのウィンドウに表示できます。

システム ブラウザ

次の図に、システム ブラウザの例を示します。



各部と機能

次の表にシステム ブラウザの各部の機能をまとめます。

各部	機能
メールボックス	[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、メールボックスの情報が表示されます。
フォルダ	[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、メールボックス フォルダの情報が表示されます。
ID	このメールボックスでメッセージを受信したときに割り当てられたメッセージ ID がリスト表示されます。
Src ID	メッセージを送信したメールボックスで割り当てられたメッセージ ID がリスト表示されます。
件名	指定したメッセージの件名が表示されます。
コンテンツ タイプ	[システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、コンテンツ タイプの情報が表示されます。 (次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
コンテンツ サブタイプ	[システム ブラウザ フィルタ]ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、コンテンツ サブタイプの情報が表示されます。
送信者	[システム ブラウザ フィルタ]ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、送信者の情報が表示されます。
受信者	[システム ブラウザ フィルタ]ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、受信者の情報が表示されます。
状態	[システム ブラウザ フィルタ]ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、メッセージの状態が表示されます。
時刻	[システム ブラウザ フィルタ]ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、メッセージが作成、送信、または受信された時刻が表示されます。

[フィルタ]ダイアログボックス

はじめに

このセクションでは、メールボックスサーバーの[フィルタ]ダイアログボックスについて説明します。このダイアログボックスで、メールボックスの[インボックス]、[アウトボックス]、または[ごみ箱]コンテナのコンテンツをどのような形式でメールボックスサーバーに表示するかを指定します。

アクセス方法

[フィルタ]ダイアログボックスを開くには、次のいずれかの操作を行います。

- メールボックスサーバーのメインツールバーから、[メッセージフィルタ]アイコンを選択します。
- メールボックスの[インボックス]、[アウトボックス]、または[ごみ箱]コンテナを右クリックして、[フィルタ付きで開く]オプションを選択します。

[フィルタ] ダイアログボックス

次の図に、[フィルタ]ダイアログボックスの例を示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[フィルタ]ダイアログ ボックスの各部の機能をまとめます。

各部	機能
状態	表示するメッセージの状態を指定します。複数の状態を選択できます。
コンテンツ タイプ	指定したコンテンツ タイプのメッセージのみをフィルタして表示できます。コンテンツ タイプをボックスに入力するか、リストからアイテムを選択します
送信者	指定した送信者からのメッセージのみをフィルタして表示できます。
受信者	指定した受信者へのメッセージのみをフィルタして表示できます。
作成時間	<p>カレンダー ドロップダウン リストで指定した [開始] および [終了] の間に作成されたメッセージのみをフィルタして表示できます。</p> <p>[開始] および [終了] オプションを使用して、メッセージが作成された期間を指定できます。</p>
送信時間	<p>カレンダー ドロップダウン リストで指定した [開始] および [終了] の間に送信されたメッセージのみをフィルタして表示できます。</p> <p>[開始] および [終了] オプションを使用して、メッセージが送信された期間を指定できます。</p>
受信時間	<p>カレンダー ドロップダウン リストで指定した [開始] および [終了] の間に受信されたメッセージのみをフィルタして表示できます。</p> <p>[開始] および [終了] オプションを使用して、メッセージが受信された期間を指定できます。</p>
隠しメッセージを 表示	ゲートウェイおよびメールボックスのプロパティの保存に使用する非表示 (隠し) メッセージを、ブラウザに表示するかどうかを指定します。
OK	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

フィルタ ブラウザ

はじめに

フィルタ ブラウザには、[フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に基づいて、メッセージが表示されます。このブラウザで、指定されたメールボックスの [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナのメッセージを表示できます。

フィルタ ブラウザ

次の図に、フィルタ ブラウザの例を示します。



各部と機能

次の表に、フィルタ ブラウザの各部の機能をまとめます。

各部	機能
ID	このメールボックスでメッセージを受信したときに割り当てられたメッセージ ID がリスト表示されます。
Src ID	メッセージを送信したメールボックスで割り当てられたメッセージ ID がリスト表示されます。
件名	指定したメッセージの件名が表示されます。
コンテンツ タイプ	[フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、コンテンツ タイプの情報が表示されます。
コンテンツ サブタイプ	[フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、コンテンツ サブタイプの情報が表示されます。
送信者	[フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、送信者の情報が表示されます。
受信者	[フィルタ] ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、受信者の情報が表示されます。

(次のページへ続く)

(続き) 各部	機能
状態	[フィルタ]ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、メッセージの状態が表示されます。
時刻	[フィルタ]ダイアログ ボックスで指定した基準に従って、メッセージが作成、送信、または受信された時刻が表示されます。

手順

メッセージの表示方法

はじめに

このトピックでは、次の操作について説明します。

- ▶ メールボックスの [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナのメッセージを表示します。
- ▶ メッセージ、受信者、および添付のペインを操作します。
- ▶ 表示されている情報を更新します。

手順

メールボックスの [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナの内容を表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	[メールボックス] フォルダを展開します。 メモ サーバーに 500 個以上のメールボックスがある場合には、メールボックスの読み込み処理に時間がかかる可能性があるため、メールボックスを 1 つだけ開くかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。シングル メールボックス モードにする場合には、[OK] をクリックし、開くメールボックスを選択します。すべてのメールボックスを表示する場合には、[キャンセル] をクリックし、メールボックスを読み込みます (この処理には時間がかかることがあります)。
3	表示するメールボックスを展開します。
4	表示するメッセージが格納されている [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナを選択します。 (次のページへ続く)

(続き) ステップ	操作	
5	<p>フィルタ操作を行うかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタ操作を行う場合は、選択したアイテムを右クリックして、メニューから [フィルタ付きで開く] を選択します。適切なフィルタ値を設定します。 [OK] をクリックします。 <p>参照 詳細については、この章の「特定メールボックスのフィルタプロパティの設定方法」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタ操作を行わない場合は、選択したアイテムを右クリックして、メニューから [開く] を選択します。 <p>システムからの応答 ウィンドウの右上部のペインに、[インボックス]、[アウトボックス]、または[ごみ箱]コンテナ内のメッセージの一覧が表示されます。</p>	
6	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	手順
	メッセージの受信者および添付の情報を表示する	メッセージペインのメッセージをダブルクリックします。受信者のペイン(中央)に受信者の情報が、添付のペイン(最下部)に添付の情報が、それぞれ表示されます。
	メッセージの種類でフィルタをかけて表示する	この章の「 特定メールボックスのフィルタプロパティの設定方法 」を参照してください。
	キューのペインに表示されている情報を更新する	[表示]メニューから [リフレッシュ] を選択します。
	メッセージを削除する	この章の「 メールボックスメッセージの削除方法 」を参照してください。

メッセージの添付の表示方法

はじめに

このセクションでは、メッセージの添付を表示する方法について説明します。

手順

メッセージの添付の内容を表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	トレーディング パートナーのメールボックスを開きます。
3	トレーディング パートナーの [アウト ボックス] アイコンをダブルクリックします。 システムからの応答 [アウト ボックス] ビューアが表示されます。
4	[アウト ボックス] ビューア内の [メッセージ ID] をダブルクリックします。 システムからの応答 メッセージ ビューアが表示されます。
5	[添付 ID] を選択して、[表示] をクリックします。 システムからの応答 添付ビューアが表示されます。 (次のページへ続く)

ステップ	操作	
6	次の操作に従って、次に進むステップを決めます。	
	操作	手順
	表示しているファイルの MIME コンテンツ タイプが、Application/EDI または text/ である場合 メモ [このビューア] ボックスに「notepad.exe」と入力されていることを確認してください。	[このビューア] を選択し、 [OK] をクリックします。
表示しているファイルの MIME コンテンツ タイプが、Application/EDI または text/ でない場合 メモ ファイル タイプが登録されている MIME タイプでない場合、添付を表示することはできません。	Windows でこのファイル タイプ用に登録されているビューアを選択し、 [OK] をクリックします。	

全メールボックスのフィルタ プロパティの設定方法

はじめに

このトピックでは、システム ブラウザ フィルタを使用して、すべてのメールボックスのフィルタ値を設定する方法について説明します。

手順

すべてのメールボックスのフィルタ値を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[メールボックス]フォルダを選択します。
2	選択したフォルダを右クリックし、メニューから [フィルタ付きで開く] を選択します。 システムからの応答 [システム ブラウザ フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	メッセージフィルタに使用する値を選択します。
4	[OK] をクリックしてフィルタ値を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。 メモ フィルタを適用した各メールボックスのタイトルバーには、"Filter Applied" と表示されます。

特定メールボックスのフィルタ プロパティの設定方法

はじめに

このトピックでは、特定のメールボックスの [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナのフィルタ プロパティを設定する方法について説明します。

フィルタ値の設定

フィルタの値を設定するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[メールボックス]フォルダを展開します。
2	フィルタ値を設定するメールボックスを展開します。
3	フィルタ値を設定する [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナを反転表示にします。
4	選択したフォルダを右クリックし、メニューから [フィルタ付きで開く] を選択します。 システムからの応答 [フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
5	メッセージフィルタに使用する値を選択します。
6	[OK] をクリックします。 メモ フィルタを適用した各メールボックスのタイトルバーには、"Filter Applied" と表示されます。

メールボックス メッセージの削除方法

はじめに

メールボックスの [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナのメッセージは削除できます。

削除された メッセージの処理

[イン ボックス] または [アウト ボックス] から削除したメッセージは、同じメールボックスの [ごみ箱] コンテナに格納されます。

[ごみ箱] コンテナから削除したメッセージは、完全に削除されて復元できなくなります。

手順

メールボックスの [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナからメッセージを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	削除するメッセージが格納されている [イン ボックス]、[アウト ボックス]、または [ごみ箱] コンテナを選択します。
2	メッセージのペインからメッセージを選択します。
3	選択したメッセージを右クリックし、メニューから [削除] を選択します。 システムからの応答 選択したアイテムを削除するかどうかを確認するダイアログが表示されます。
4	[はい] をクリックします。
5	[表示] メニューから [リフレッシュ] を選択して、タイトルバーに表示されている情報を更新します。

削除したメッセージの復元方法

はじめに

復元機能を使用すると、削除したメッセージを [ごみ箱] コンテナから [インボックス] または [アウトボックス] に復元できます。

メモ

[ごみ箱] コンテナから削除したメッセージは復元できません。

手順

削除したメッセージを復元するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	復元するメッセージが格納されている [ごみ箱] コンテナを開きます。
2	メッセージのペインからメッセージを選択します。
3	選択したメッセージを右クリックし、メニューから [復元] を選択します。 システムからの応答 選択したアイテムを復元するかどうかを確認するダイアログが表示されます。
4	[はい] をクリックします。 システムからの応答 メッセージが、適切な [インボックス] または [アウトボックス] に復元されます。
5	[表示] メニューから [リフレッシュ] を選択して、[ごみ箱] コンテナのタイトルバーに表示されている情報を更新します。
6	[インボックス] または [アウトボックス] にメッセージが復元されていることを確認します。

メールボックス サーバーのメッセージ

目次

▶ 概要	2
▶ エラー メッセージの処理	3
▶ 双方向メッセージ	5

概要

本章の目的

本章では、メールボックス サーバーで生成されるメッセージについて説明します。メールボックス サーバーで表示されるメッセージは、次のコンポーネントによって生成されます。

- ▶ Gentran:Server コミュニケーションズ マネージャ (CommMgr)
- ▶ メールボックス サーバー マネージャ
- ▶ メールボックス クライアント
- ▶ メールボックス サーバー ゲートウェイ

メールボックス サーバー マネージャを使用してコミュニケーションズ サブシステムを操作する場合、メッセージはユーザー インターフェイスを介して対話的に表示されます。コミュニケーションズ サブシステムでのメッセージの処理にプロセス管理を使用する場合、生成されたメッセージは Gentran:Server オーディット ログに送信されます。

参照

メールボックス サーバー向けのメッセージを生成する方法についての詳細は、本章の「[エラー メッセージの処理](#)」を参照してください。

参照

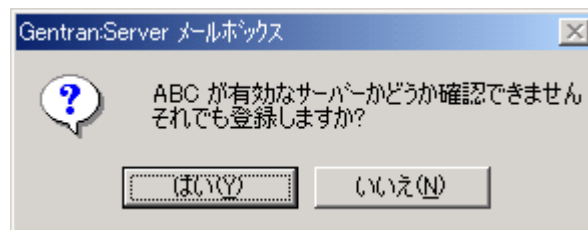
オプション ゲートウェイのエラー メッセージは、各オプション ゲートウェイの『設定 ガイド』に記載されています。

双方向メッセージの形式

メールボックス サーバー マネージャ操作時のメッセージは、メッセージ ボックス内に対話的に表示されます。

例

次の図に、双方向メッセージの形式の例を示します。



エラー メッセージの処理

はじめに

メールボックス サーバーで生成される情報およびエラー メッセージは、次のログ ファイルにルーティングされて格納されます。

- ▶ Gentran: Server オーディット ログ
- ▶ Gentran:Server コミュニケーションズ ログ (メールボックス サーバー マネージャ経由でアクセス)
- ▶ Microsoft Windows アプリケーション イベント ログ

Gentran オーディット ログ

Gentran オーディット ログには、ブラウザの起動と終了、コミュニケーションセッションの開始や呼び出し、データのインポートなどのユーザーの動作に関するアプリケーション メッセージが書き込まれます。コミュニケーションズサブシステム用に生成されるメッセージは「CommMgr」で始まります。これは、メッセージが Gentran:Server コミュニケーション マネージャと関連付けられていることを示します。

オーディット通知システムを使用すると、特定のオーディット メッセージが生成されたときに、ユーザーに対する警告が出されるようにシステムを設定できます。

メールボックス サーバーから Gentran オーディット ログにアクセスするには、メールボックス サーバーのメイン ツールバーで [オーディット ログ] アイコンを押します。

参照

Gentran オーディット ログの詳細については、『Gentran:Server for Windows 管理ガイド』の「オーディット通知システムの使い方」を参照してください。

Gentran:Server コミュニケーションズ ログ

Gentran:Server コミュニケーションズ ログには、コミュニケーションセッション中に生成されたすべてのメッセージが書き込まれます。このログを表示するには、Gentran:Server コミュニケーションズの [ゲートウェイプロパティ] ダイアログ ボックスの [セッション] タブを使用します。

(次のページへ続く)

Windows アプリケーション イベント ログ

Windows アプリケーション イベント ログには、システム メッセージとデータベース メッセージが書き込まれます。これらのメッセージには、Gentran:Server コミュニケーション セッションに関するデータベース接続とアクセス権、リソース、およびメッセージについての情報が書き込まれます。このイベント ログを表示するには、Windows 管理ツールから Windows イベント ビューアを使用します。

参照

Windows アプリケーション イベント ログおよび Windows イベント ビューアの詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

双方向メッセージ

はじめに

このトピックでは、メールボックス サーバー コミュニケーションズの操作時に表示される双方向メッセージについて説明します。

メモ

これらのメッセージは、Gentran オーディット ログに表示される場合もあります。オーディット ログに送信されるメッセージは「CommMgr」で始まります。

メッセージ

次の表に、メールボックス サーバーで生成される双方向メッセージをまとめます。

メッセージ番号	メッセージ	説明
0	成功	この機能は正常に終了しました。
1	partial success	この機能は全体としては終了しましたが、いくつかのエラーが発生しました。送信されたメッセージが、一部の受信者には送達されなかった場合などが考えられます。
2	invalid session	無効なセッション ID が指定されました。通常、ログオンが呼び出されなかったことが原因です。
3	アクセス拒否	呼び出し側またはメールボックスサービスのいずれかに、必要なリソースへのアクセス権がなかったため、この機能を完了することができませんでした。
4	データベース エラー	この機能の処理中に ODBC エラーが発生しました。
5	database not available	サービスを実行するためのデータベース接続が利用できないため、この機能を完了することができませんでした。
6	メールボックスが無効です	無効なメールボックス ID、メールボックス名、または E メールアドレスが指定されました。
7	invalid list	無効なリスト ID またはリスト名が指定されました。
8	invalid message	無効なメッセージ ID が指定されました。

(次のページへ続く)

(続き) メッセージ 番号	メッセージ	説明
9	無効な受信者	指定された受信者 ID が無効でした (メールボックス ID でもリスト ID でもありませんでした)。
10	invalid recipient type	無効な受信者タイプが指定されました。
11	invalid attachment	無効な添付 ID が指定されました。
12	error copying attachment	添付データのコピー時にエラーが発生しました。
13	invalid folder	無効なフォルダ ID が指定されました。
14	invalid sender	無効な Sender ID が指定されました。
15	invalid content type	無効なコンテンツ タイプまたはサブタイプが指定されました。
16	spooler delivering	配信済みのスプーラについて、その配信の開始が要求されました。
17	spooler not delivering	未配信のスプーラに対して、その配信の停止が要求されました。
18	spooler cannot deliver	スプーラがメッセージの配信を開始できませんでした。
19	message not ready	送信準備ができていないメッセージの送信が要求されました (受信者が指定されていないか、Sender ID が見つかりません)。
20	no message recipients	受信者が指定されていないため、メッセージを配信できませんでした。
21	insufficient buffer	この機能を実行するには、より大きなバッファが必要です。
22	invalid acl	無効なアクセス制御リストが指定されました。
23	security descriptor error	セキュリティ記述子の作成またはアクセスができませんでした。
24	no acl	使用可能なアクセス制御リストがありません。
25	認証エラー	メールボックス サーバーでは呼び出し側のアプリケーションを識別できなかったため、呼び出し側のアクセス権を確認できませんでした。

(次のページへ続く)

(続き) メッセージ 番号	メッセージ	説明
26	access check error	アクセス権の確認時にエラーが発生しました。
27	ネットワーク エラー	この機能の実行中にネットワーク エラーが発生しました。通常、接続しているクライアントで処理を実行しているときに、メールボックス サーバーをシャットダウンしたことが原因で発生します。
28	no connection	メールボックス サーバーとの接続が正常に確立される前に、この機能呼び出そうとしました。
29	user cancel	ユーザーがダイアログをキャンセルしました。
30	connect failed	メールボックス サーバーへの接続中にエラーが発生しました。通常、サーバーが起動していないことが原因で発生します。
31	menace not connected	関連する Menace がないセッションの切断、またはそのようなセッションの通知の設定が要求されました。
32	menace connect failed	要求された Menace に接続できませんでした。
33	menace invalid mailbox	そのメールボックスに関連付けられた Menace がないセッションに対して、メールボックス通知のキャンセルが要求されました。
34	invalid stream	無効なストリーム ID が指定されました。
35	stream open failed	添付のストリームを開こうとしてエラーが発生しました。
36	stream error	ストリームの操作中にエラーが発生しました。
37	attachment is shared	現在のバージョンでは発生しないエラーです。
38	gateway not loaded	メールボックス サーバーの起動時に、読み込みに失敗したゲートウェイのゲートウェイ機能呼び出そうとしました。 (次のページへ続く)

(続き) メッセージ 番号	メッセージ	説明
39	gateway not found	メールボックス サーバーが起動されたときに、読み込みに失敗したゲートウェイを使用するゲートウェイ メールボックスからゲートウェイ機能呼び出そうとしました。
41	out of memory	オペレーティング システムからメモリを割り当てることができませんでした。
42	thread token error	スレッドに関する必要な情報を取得できませんでした。
43	thread model already set	異なるスレッド モデルで UI ライブラリを再初期化しようとしてしました。
44	invalid thread model	無効なスレッド モデルで UI ライブラリを初期化しようとしてしました。
45	not supported	要求された機能は、サポートされていません。
46	invalid clapi module	指定されたモジュールハンドルを使用して、CLAPI ライブラリを CLAPI サーバー インターフェイスに接続することができませんでした。
47	invalid dynalink	CLAPI サーバー インターフェイスに正常に接続できなかった CLAPI ライブラリの機能呼び出そうとしました。
48	invalid callback	NULL のコールバック機能ポインタが指定されました。
49	use default properties	利用可能なプロパティがありません。適切な既定値を使用する必要があります。
50	gateway property error	プロパティの検索中に、ゲートウェイでエラーが発生しました。
51	could not create timer	システム タイマーを作成できませんでした。この状況は、Windows 4.0 より前のバージョンで発生します。
52	invalid gateway	無効なゲートウェイ名が指定されました。
53	file error	メールボックス サーバーで、ファイル システム エラーが発生しました。

(次のページへ続く)

(続き) メッセージ 番号	メッセージ	説明
54	sid error	セキュリティ ID にエラーが発生しました。
55	delivery agent not loaded	メールボックス サーバーの起動時に、読み込まれていないデリバリエージェントの機能を呼び出そうとしました。
56	invalid delivery agent	無効なデリバリエージェントが指定されました。
57	invalid delivery rule	無効な配送ルールが指定されました。
58	delivery agent handled message	メッセージは、デリバリエージェントによって完全に処理されています。これ以上の処理は必要ありません。
59	delivery agent param error	デリバリエージェントのパラメータにエラーが発生しました。通常、配送ルールに不正なコマンドラインが記述されていることが原因で発生します。
60	delivery agent error	デリバリエージェントでエラーが発生しました。
1000	gateway error	ゲートウェイでエラーが発生しました。
1001	mailbox not supported by gateway	このゲートウェイを使用するように構成されていないメールボックスで機能を実行するよう要求されました。
1019	The File System Gateway failed to initialize the collection process.	すべての収集フォルダが有効であることを確認し、Windows アプリケーション イベント ビューアで原因を調べます。

メッセージの追跡

目次

概要	2
▶ はじめに	2
▶ Gentran:Server コミュニケーションズ マネージャ	3
▶ メールボックス サーバーでのオーデイト通知の使用	8
手順	9
▶ アウトバウンド メッセージの追跡方法	9
▶ インバウンド メッセージの追跡方法	13
ステータス情報	18
▶ メッセージの状態	18
▶ 受信者側の状態	20



概要

はじめに

本章の内容

本章では、メールボックス サーバー システムを介してメッセージを追跡する手順について説明します。

主な用語

次の表は、本章で使用される主な用語の説明です。

用語	説明
添付	メッセージに添付されるドキュメントなどのアイテム。
イベント	プロセス管理によって起動する一連のシステム動作。
メッセージの追跡	メールボックス サーバーを介してメッセージが渡される各段階を特定する処理。

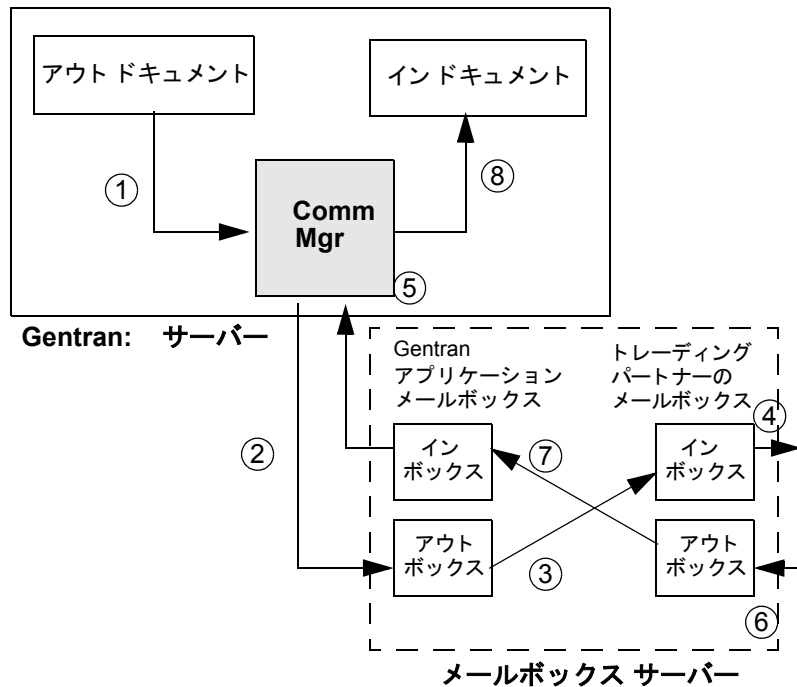
Gentran:Server コミュニケーションズ マネージャ

はじめに

Gentran:Server と Gentran アプリケーション メールボックスとの間でのメッセージおよび添付の転送は、コミュニケーションズ マネージャ (CommMgr) によって制御されます。コミュニケーションズ マネージャは、プライマリ システム コントローラに常駐する Gentran:Server エグゼクティブ サービスの一部です。

図

次の図に、メールボックス サーバー内の Gentran:Server と Gentran アプリケーション メールボックスの相互関係を示します。



(次のページへ続く)

説明

Gentran:Server for Windows でのコミュニケーションがコミュニケーションズ マネージャによってどのように制御されるかを、次の表で説明します。

段階	説明
1	<p>コミュニケーションズ マネージャは、自動処理セッションまたはユーザーの操作によって呼び出されます。</p> <p>例 Gentran:Server デスク上の電話のアイコンをクリックすると、送受信セッションが開始されます。インターチェンジプロセスが実行され、コミュニケーションズ マネージャによってインターチェンジドキュメントが送信されます。</p>
2	<p>コミュニケーションズ マネージャは、状態が "送信準備完了" になっているインターチェンジドキュメントを取り出し、Gentran アプリケーションのアウト ボックスにメッセージを作成します。特定のメールボックスへのすべてのインターチェンジは、1つのメッセージに格納されます。次に、コミュニケーションズ マネージャは、適切なメールボックスへのメッセージの書き込みをメールボックス サーバーに要求します。</p>
3	<p>メールボックス サーバーによって、一意のメッセージ ID が割り当てられた新規メッセージがトレーディング パートナーのインボックスに作成されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 段階	説明
4	<p>次に、コミュニケーションズ マネージャでは、トレーディング パートナーのメールボックスに指示を出して、トレーディング パートナーのシステムとの接続を確立させます。</p> <p>例 メールボックスは、適切なゲートウェイを経由して VAN に接続するか、直接トレーディング パートナーのシステムに接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Gentran:Server コミュニケーションズ ゲートウェイ経由のコミュニケーションの場合、接続が確立されると、リモートシステムに待機メッセージが転送されます。 <p>メモ コミュニケーションズ ゲートウェイは、オプションのシステム コンポーネントです。</p> <p>参照 構成手順および関連情報については、『Gentran:Server for Windows コミュニケーションズ ゲートウェイ設定 ガイド』を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイル システム ゲートウェイ経由のコミュニケーションの場合、メッセージはファイル システム上の指定フォルダに抽出されます。 ▶ MAPI ゲートウェイ経由のコミュニケーションの場合、メッセージは MAPI メッセージストアに格納されます。 <p>メモ MAPI ゲートウェイは、オプションのシステム コンポーネントです。</p> <p>参照 構成手順および関連情報については、『Gentran:Server for Windows MAPI ゲートウェイ設定 ガイド』を参照してください。</p>
5	<p>コミュニケーションズ マネージャは、キュー内のメッセージが送信されたことを示す通知をメールボックスから受け取ると、インターチェンジ ブラウザ内のインターチェンジの状態を更新します。</p>
6	<p>取り出し待ちのメッセージがある場合、メールボックス サーバーでは、そのデータを受信して、トレーディング パートナーのアウトボックスに新しいメッセージを作成します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) 段階	説明
7	メールボックス サーバーは、インバウンド データを受信すると、Gentran アプリケーションのイン ボックスに新しいメッセージを作成します。
8	Gentran アプリケーションのイン ボックスに格納されているメッセージが取り出され、Gentran:Server の [InDocuments] コンテナに新しい EDI ドキュメントが作成されます。

コミュニケーションズ マネージャの回復処理

コミュニケーションズ マネージャの回復処理は、プライマリ システム コントローラ上の Gentran:Server メールボックス サービスまたは Gentran:Server エグゼクティブ サービスが、コミュニケーション セッション中に停止した場合に実行されます。回復処理は、下記のような状況で実行されます。

- ▶ Gentran:Server エグゼクティブ サービスが停止するのは、データがインターチェンジされ、メールボックス サーバーによって正常に送信されたメッセージが、Gentran アプリケーション メールボックスに作成された後です。
- ▶ Gentran:Server メールボックス サービスは、インターチェンジを送信する前に停止します。

状況 1

データのインターチェンジが完了した後で Gentran:Server が停止したときに、メッセージを作成および送信するための呼び出しが既にコミュニケーションズ マネージャによって行われている場合、メッセージは正常に送信されている可能性があります。しかし、Gentran:Server エグゼクティブ サービスが起動していないため、メッセージが送信されたことを示すメールボックス サーバーからの通知を受信できません。インターチェンジは正常に送信されているにもかかわらず、その状態は "送信済み" に変更されていません。

状況 2

ドキュメントの送信を開始する前に Gentran:Server メールボックス サービスが停止した場合でも、インターチェンジは作成されます。しかし、コミュニケーションズ マネージャがメールボックス サーバーに接続できないため、Gentran アプリケーション メールボックスにメッセージは作成されず、状態は "送信準備完了" のままとなります。

(次のページへ続く)

回復のしくみ

回復処理では、まず Gentran:Server 内のインターチェンジの状態がチェックされ、メールボックス内のメッセージの状態と比較されます。Gentran:Server 側のインターチェンジの状態が "送信準備完了"、"順番待ち"、"送信済み" でメールボックス側の状態が異なる場合は、これに応じて Gentran:Server 側の状態が更新されます。

次に、メッセージ ID が割り当てられておらず、かつ状態が "送信準備完了" であるインターチェンジがすべて取り出され、これら进行处理するコミュニケーションズセッションが再開されます。状況 2 においては、送信の開始時にメールボックス サービスが起動していなかった場合、回復処理によってインターチェンジが取り出され、コミュニケーションセッションが開始されます。

回復処理の 実行タイミング

回復処理は、プライマリ システム コントローラ上の Gentran:Server エグゼクティブ サービスが再起動されたとき、または Gentran:Server エグゼクティブ サービスの稼動中に Gentran:Server メールボックス サービスが再起動されたときに実行されます。

メールボックス サーバーでのオーディット通知の使用

はじめに

オーディット通知システムは、エラーを識別するためのソフトウェア コンポーネントであり、Gentran:Server と共にインストールされます。このシステムを使用して、Gentran:Server およびその関連システム (メールボックス サーバーなど) 内でのオーディット メッセージの生成および通知動作を構成できます。

Gentran オーディット ログ

メールボックス サーバーでは、ユーザーの操作やシステムの処理を識別するために、オーディット メッセージが Gentran オーディット ログに書き込まれます。Gentran オーディット ログには、このようなオーディット ログ エントリがリスト形式で表示され、システム動作のモニターに使用できます。

Gentran オーディット ログ コンポーネントを使用して、次の処理を実行できます。

- ▶ オーディット ログに書き込まれたオーディット メッセージのリスト表示
- ▶ 選択したログ エントリの詳細情報の表示
- ▶ オーディット メッセージをまとめてスキャンするためのページング
- ▶ 特定のオーディット ログ エントリの検索
- ▶ 以下の事項の変更による、オーディット ログの表示のカスタマイズ
 - 列サイズ
 - 表示選択
 - 並べ替え
- ▶ 特定のメッセージのみを表示するための、オーディット ログ リストへのフィルタ設定
- ▶ 新しいエントリの追加を確認するための、オーディット ログ リストの更新

参照

詳細については、『Gentran:Server for Windows 管理 ガイド』の「オーディット通知システムの使い方」を参照してください。

メールボックス サーバーから Gentran オー ディット ログへの アクセス

メールボックス サーバーを使用すると、2つの方法のうち1つを使用して Gentran オーディット ログにアクセスできます。

- ▶ メイン ツールバーで、[Gentran オーディット ログ] アイコンをクリックします。
- ▶ 登録されているサーバーを選択し、右クリックして [オーディット ログを表示] を選択します。

手順

アウトバウンド メッセージの追跡方法

はじめに

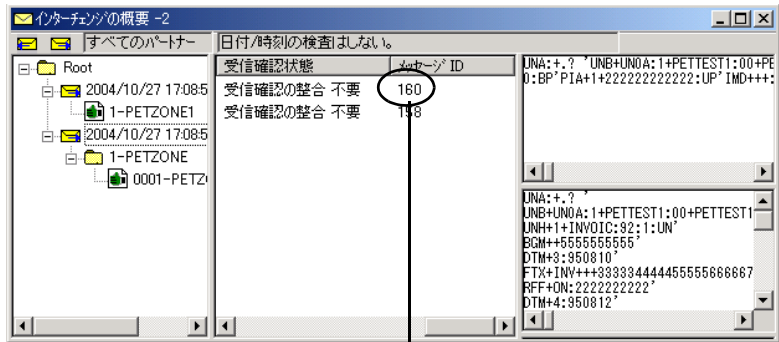
このトピックでは、メールボックス サーバーから送信されたメッセージを追跡する方法について説明します。


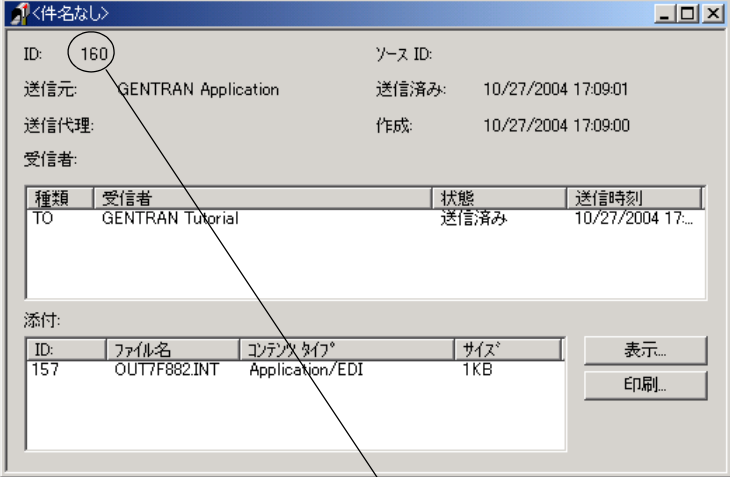
使用する場合


次の手順は、Gentran:Server とメールボックス サーバー システムを介してメッセージを追跡する場合に使用します。

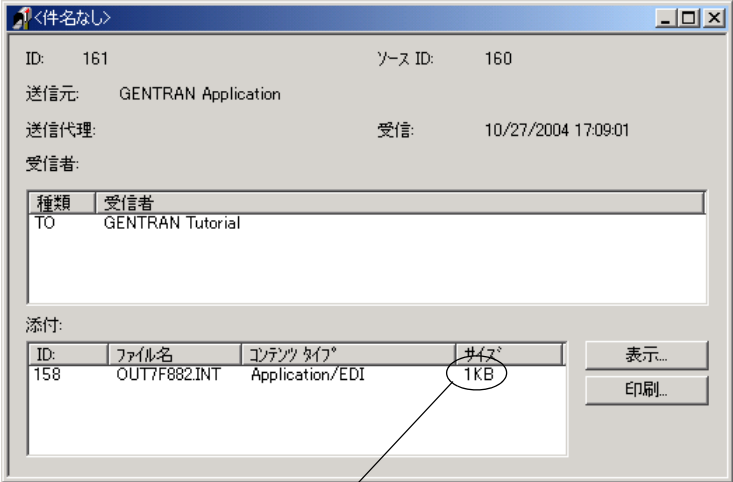
手順

メールボックス サーバーから送信されたメッセージを追跡するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	Gentran:Server インターチェンジブラウザを開きます。
2	<p>追跡するインターチェンジを探します。メールボックス サーバーのメッセージ ID は、インターチェンジブラウザの一番右に記録されています。</p> <p>例 メッセージ ID が 160 のインターチェンジは、次の図のように表示されます。</p>  <p style="text-align: center;">メッセージ ID = 160</p>
3	<p>メールボックス サーバー マネージャを起動します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	Gentran アプリケーション メールボックスを開きます。
5	<p>Gentran アプリケーションの [アウト ボックス] アイコンをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。</p> 
6	<p>インターチェンジブラウザに表示されているメッセージ ID をダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。</p>  <p style="text-align: center;">メッセージ ID = 160</p> <p>メモ このビューアで、追跡するメッセージの状態が " 送信中 " と表示されている場合は、そのメッセージがトレーディング パートナーの [イン ボックス] に転送されていない可能性があります。この場合は、数分待ってからメッセージが転送されたかどうかを確認する必要があります。または、Gentran:Server メールボックス サービスを停止して再起動する必要があります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
7	受信者、状態、および時刻を確認します。メッセージの通常の状態は " 送信済み " または " サード パーティ " です。これらの状態は、メッセージがトレーディング パートナーのイン ボックスに転送されたことを示します。
8	メッセージの送信先であるトレーディング パートナーのメールボックスを開きます。
9	トレーディング パートナーの [イン ボックス] アイコンをダブルクリックします。 システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。  <p style="text-align: center;"> メッセージ ソース ID = 160 (Gentran アプリケーションの [アウトボックス] に表示されるメッセージ ID に対応) </p>
10	このメールボックスにメッセージが転送されていることを確認します。このメールボックスでの正常なメッセージの状態は " 読み込み " です。この状態は、メッセージが適切なゲートウェイを経由してトレーディング パートナーのシステムに転送されたことを示します。 メモ 1 このビューアの Src ID は、Gentran アプリケーションの [アウトボックス] に表示されるメッセージ ID に対応しています。 メモ 2 このビューアで、追跡するメッセージの状態が " 未読 " と表示されている場合、トレーディング パートナーはそのメッセージをまだ読み込んでいません。この場合、数分待ってから、トレーディング パートナーがそのメッセージを読み込んでいるかどうかを確認する必要があります。 <p style="text-align: right; color: green;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
11	<p>メッセージ ID をダブルクリックして、メッセージ ビューアを開きます。</p> <p>システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。</p>  <p style="text-align: center;">サイズ = 1KB</p>
12	<p>メッセージ ビューアで、添付のサイズが 0K より大きいことを確認します。</p> <p>メモ メッセージの送受信時の詳細情報が必要な場合は、Gentran:Server オーディット ログを参照します。</p> <p>また、Gentran:Server コミュニケーションズ ゲートウェイまたは Gentran:Server Advanced Data Distribution をインストールしている場合は、[Gentran:Server コミュニケーションズ] ダイアログ ボックスの [セッション] タブから コミュニケーションズ ログにアクセスして、これを参照することができます。</p> <p>参照 詳細については、『Gentran:Server for Windows コミュニケーションズ ゲートウェイ設定 ガイド』および『Gentran:Server for Windows アドバンスド データ ディストリビューション ゲートウェイ設定 ガイド』を参照してください。</p>

インバウンド メッセージの追跡方法

はじめに


このトピックでは、メールボックス サーバーで受信したメッセージを追跡する方法について説明します。

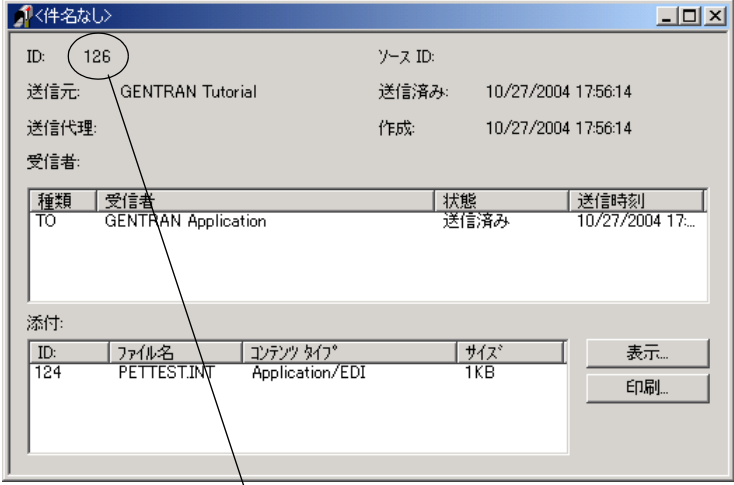
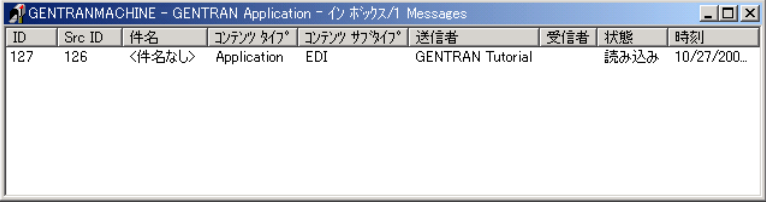
使用する場合


次の手順は、Gentran:Server とメールボックス サーバー システムを介してメッセージを追跡する場合に使用します。

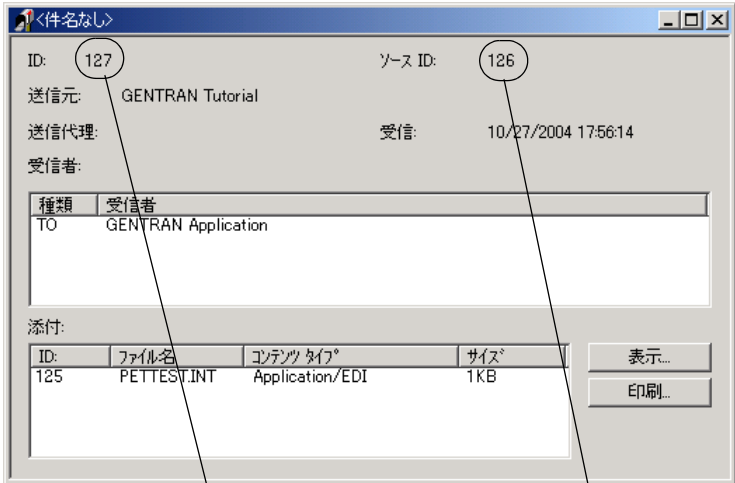
手順

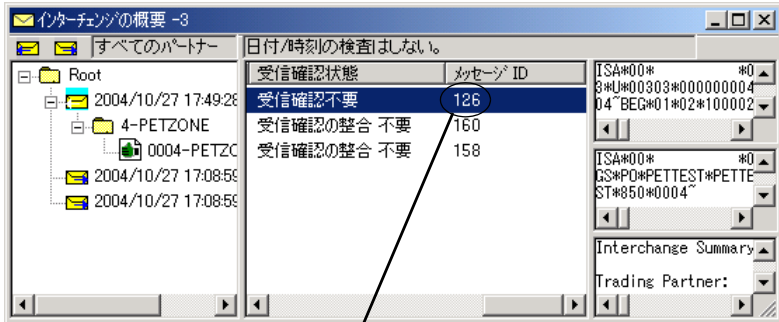
メールボックス サーバーで受信したメッセージを追跡するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	メールボックス サーバー マネージャを起動します。
2	トレーディング パートナーのメールボックスを開きます。
3	<p>トレーディング パートナーの [アウト ボックス] アイコンをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。</p>  <p>(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
4	<p>アウト ボックス ビューア内のメッセージ ID をダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。</p>  <p style="text-align: center;">メッセージ ID = 126</p>
5	<p>メッセージが存在し、添付が作成されていることを確認します。 [アウト ボックス] では、通常のメッセージの状態は " 送信済み " です。この状態は、メッセージが Gentrans アプリケーションの [イン ボックス] に転送されたことを示します。</p>
6	<p>Gentrans アプリケーション メールボックスを開きます。</p>
7	<p>Gentrans アプリケーションの [イン ボックス] アイコンをダブルクリックします。</p> <p>システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。</p>  <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
8	<p>[Src Id] 列で、トレーディング パートナーの [アウト ボックス] の ID 列 に対応するメッセージ ソース ID を探します。送信者、状態、および時刻を確認します。このメールボックスでの正常なメッセージの状態は " 読み込み " です。この状態は、メッセージが Gentran:Server システムに転送されたことを示します。</p>  <p>メッセージ ID = 130 ソース ID = 126</p> <p>メモ 1 Src ID は、トレーディング パートナーのアウト ボックス ビューアの ID 列に表示される値に対応しています。</p> <p>メモ 2 このビューアで、追跡するメッセージの状態が " 未読 " と表示されている場合は、そのメッセージがまだ Gentran:Server に読み込まれていないことを示します。この場合、数分待つてから、そのメッセージが Gentran:Server に読み込まれたことを確認する必要があります。または、Gentran:Server メールボックス サービスを停止して再起動する必要があります。</p> <p>参照 詳細については、本ガイドの「コミュニケーションズの構成」の「メールボックス サービスの開始方法」および「メールボックス サービスの停止方法」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
9	<p>メッセージ ID をダブルクリックして、メッセージ ビューアを開きます。</p> <p>システムからの応答 次の図のようなビューアが表示されます。</p>  <p style="text-align: center;">メッセージ ID = 130 ソース ID = 126</p>
10	<p>メッセージ ビューアで、添付のサイズが 0K より大きいことを確認します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

(続き) ステップ	操作
11	<p>Gentran:Server インターチェンジブラウザを開き、目的のメッセージ ID のインターチェンジを探します。インターチェンジブラウザでのインターチェンジの正常な状態は "受信済み" です。</p> <p>システムからの応答 メッセージ ID が 130 のインターチェンジは、次の図のように表示されます。</p>  <p style="text-align: center;">メッセージ ID = 126</p> <p>メモ メッセージの送受信時の詳細情報が必要な場合は、Gentran:Server オーディット ログを参照します。</p> <p>また、Gentran:Server コミュニケーションズ ゲートウェイまたは Gentran:Server Advanced Data Distribution をインストールしている場合は、[Gentran:Server コミュニケーションズ] ダイアログ ボックスの [セッション] タブからコミュニケーションズ ログにアクセスして、これを参照することができます。</p> <p>参照 詳細については、『Gentran:Server for Windows コミュニケーションズ ゲートウェイ設定 ガイド』および『Gentran:Server for Windows アドバンスド データ ディストリビューション ゲートウェイ設定 ガイド』を参照してください。</p>

ステータス情報

メッセージの状態

はじめに

メールボックス サーバー システムでメッセージが処理されると、そのメッセージに状態が割り当てられます。

メッセージと受信者

メールボックス サーバーでは、メッセージの状態が追跡されるだけでなく、受信者側のメッセージの状態も提供されます。

メモ

複数の受信者へのメッセージの状態は、各受信者によるメッセージの読み取りおよび処理の状況に応じて変化します。

状態

次の表に、メッセージに割り当てられる状態をまとめます。

状態	説明	使用箇所
不完全	メッセージは、送信できる状態になっていません。受信者が指定されていないことなどが考えられます。	アウト ボックス
順番待ち	メッセージは送信待ちの状態です。	アウト ボックス
読み込み	メッセージは、受信者のメールボックスに転送済みです。メールボックスの所有者が、このメッセージを既に読み込んでいます。	イン ボックス
送信準備完了	メッセージは順番待ちの状態です。	アウト ボックス
Send_Failed	受信者へのメッセージの転送を試みましたが、失敗しました。	アウト ボックス
送信	受信者にメッセージを転送中です。 これに対応する受信者側の状態 <ul style="list-style-type: none"> ▶ In_Gateway <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>	アウト ボックス

(続き) 状態	説明	使用箇所
送信済み	メッセージは、受信者のメールボックスに転送済みです。 これに対応する受信者側の状態 <ul style="list-style-type: none">▶ 配達済み▶ Delivery_Failed▶ Picked_Up▶ Send_Failed▶ 送信済み▶ Sent_Third_Party	アウトボックス
未読	メッセージは受信者のメールボックスに転送済みですが、メールボックスの所有者がまだメッセージを読み込んでいません。	インボックス

受信者側の状態

はじめに

メッセージが受信者側のシステムで処理されると、受信者側のメッセージの状態が割り当てられます。

状態

次の表に、受信者側で割り当てられるメッセージの状態をまとめます。

状態	説明
配達済み	メッセージは受信者に転送済みで、受信者側のメッセージングソフトウェアによる読み込み待ちです。
Delivery_Failed	受信者へのメッセージの転送を試みましたが、失敗しました。指定したゲートウェイでのコミュニケーションズに問題はありませんが、不達レポートを受信しました。
In_Gateway	受信者にメッセージを送信中です。
Picked_Up	メッセージは受信者に転送済みで、受信者側で既に取り出されています。
Send_Failed	受信者へのメッセージの転送を試みましたが、失敗しました。
送信済み	メッセージは受信者に転送済みです。
Sent_Third_Party	メッセージは、ファイルシステムゲートウェイ経由で受信者に転送されました。

用語解説

EXE デリバリエージェント

メールボックス サーバーに付属しているデリバリエージェントであり、メールボックス サーバーによってルーティングされたメッセージに対して実行する実行可能プログラムの起動を制御します。実行可能プログラムは、メールボックスサーバーで送受信されたメッセージに、さらに処理を加えるために使用します。これらの実行可能プログラムを起動するには、特定のメールボックスの配送ルールを作成します。

Gentran オーディット ログ

ブラウザの起動と終了、コミュニケーションセッションの開始や呼び出し、データのインポートなどのユーザーアクションに関するアプリケーションメッセージが書き込まれるログ。コミュニケーションズ サブシステム用に生成されるメッセージは "CommMgr" で始まります。これは、メッセージが Gentran:Server コミュニケーション マネージャと関連付けられていることを示します。

Gentran:Server コミュニケーションズ ゲートウェイ

メールボックス サーバーとの間でメッセージを転送するために使用するオプション ゲートウェイ。次のような、さまざまなテレコミュニケーションズ プロトコルをサポートしています。

- ▶ 非同期
- ▶ バイナリ同期
- ▶ TCP/IP (Transmission Control Protocol / Internet Protocol)
- ▶ FTP (File Transfer Protocol)
- ▶ WS_FTP Pro ファイル転送プログラム
- ▶ ISDN (Integrated Services Digital Network)
- ▶ EICON X.25T

Gentran:Server コミュニケーションズ マネージャ

Gentran:Server と Gentran アプリケーション メールボックスとの間での、メッセージと添付の転送を制御します。コミュニケーションズ マネージャ (CommMgr) は、プライマリ システム コントローラに常駐する Gentran:Server エグゼクティブ サービスの一部です。

(次のページへ続く)

**Gentran:Server
コミュニケーション
ズ ログ**

コミュニケーション セッション時に生成されたすべてのメッセージが書き込まれるログ。このログは、Gentran:Server コミュニケーションズの [ゲートウェイ プロパティ] ダイアログ ボックスの [セッション] タブから利用可能です。

MAPI

Message Application Programming Interface (メッセージ アプリケーション プログラミング インターフェイス) の略称。

MAPI ゲートウェイ

メールボックス サーバーのメールボックスを定義済みの MAPI メッセージ ストアにリンクさせる機能を果たすオプション ゲートウェイ。

**VATPRINT
ユーティリティ**

TRADACOMS データまたは UK EDIFACT データの送受信時に、VAT (付加価値税) 伝送レポートを生成するために使用する外部データ プロセッサ。このレポートは、UK Customs and Excise および UK Article Number Association (ANA) で定義されたフォーマットで生成されます。VATPRINT ユーティリティは、配送ルールのコマンド ラインで呼び出します。

**Windows
アプリケーション
イベント ログ**

システム メッセージとデータベース メッセージが書き込まれるイベント ログ。これらのメッセージには、Gentran:Server コミュニケーション セッションに関係するデータベース接続とアクセス権、リソース、およびメッセージについての情報が書き込まれます。このイベント ログを表示するには、Windows 管理ツールの Windows イベント ビューアを使用します。

**Xprocess DLL
エージェント**

Gentran:Server に付属している Xprocess DLL エージェントは、トレーディング パートナーとの間で送受信するデータを準備するために使用します。Xprocess DLL エージェントを呼び出すには、[配送ルールの編集] ダイアログ ボックスの [エージェント] リストからエージェントを選択し、特定のコマンド ライン パラメータを入力します。

**XPROCESS
ユーティリティ**

データの送受信時に使用する外部データ プロセッサ。通常、トレーディング パートナーとの間でデータを送受信できるように準備する場合に使用します。XPROCESS ユーティリティは、配送ルールのコマンド ラインで呼び出します。

(次のページへ続く)

**アドバンスド
データ ディストリ
ビューション**

トレーディング パートナーがコミュニケーション セッションを開始できるようにするためのオプション ゲートウェイ コンポーネント。標準的なコミュニケーション セッションでは、Gentran:Server から VAN やトレーディング パートナーに交信します。これに対し、アドバンスド データ ディストリビューションは受動的で、トレーディング パートナーからの交信を待ちます。

共有

コミュニケーションズ デバイスの集まり。

ゲートウェイ

2 者間のメッセージの伝送を制御するソフトウェア コンポーネント。ゲートウェイは、送信者と受信者の間のメッセージを、適切なプロトコルを使って転送する役割を果たします。

**ゲートウェイ
メールボックス**

作成したメールボックスのうち、ゲートウェイに関連付けられているもの。各ゲートウェイ メールボックスに定義するプロパティによって、トレーディング パートナーへのメッセージの転送方法が決定されます。

関連項目

メールボックス、非ゲートウェイ メールボックス

**コミュニケーション
ズ コントローラ**

コミュニケーション セッションを制御するコンピュータ。

**コミュニケーション
ズ スクリプト**

コミュニケーションズ処理は、メールボックス サーバーによって制御されます。Gentran:Server for Windows の一部として配布される基本メールボックス サーバーには、トレーディング パートナーとコミュニケーションを行う機能が用意されています。

システム ブラウザ

事前に定義した基準に一致するすべてのメールボックス メッセージが表示されるブラウザ。

受信者リスト

メッセージに関連付けられているメール アドレスのリスト。各ゲートウェイを介してメッセージを送信するときに使用する既定の受信者リストは、ファイルシステム ゲートウェイ メールボックスおよび Gentran:Server コミュニケーションズ ゲートウェイ メールボックスで設定できます。受信者リストには、配布先リスト、および第 1 受信者と第 2 受信者の情報を入れることができます。

(次のページへ続く)

**デリバリ
エージェント**

送受信するメッセージ上で外部プログラムを実行するエージェント。メールボックスサーバーをインストールすると、EXE エージェントおよび Xprocess DLL というデリバリ エージェントもインストールされます。

添付

トレーディング パートナーとの間で交換するビジネスドキュメント。これらのドキュメントには、業務システムによって生成される EDI (電子データ交換) 情報を含めることができます。メールボックスサーバーでは、このような情報をメッセージへの添付として格納します。

配送ルール

メッセージの処理基準のリスト。

配布先リスト

メールボックスサーバー内のメールボックスのグローバルリスト。配布先リストは、すべてのメールボックスユーザーが使用できます。メッセージに各個人のアドレスを指定する代わりに、複数のメールボックスを1つの配布先リストにまとめることができます。ゲートウェイメールボックスを構成する際には、配布先リストを受信者として定義できます。

**非ゲートウェイ
メールボックス**

Gentran:Server のインストール時に作成される Gentran アプリケーションメールボックス。このメールボックスは、Gentran:Server for Windows とトレーディングパートナーとの間で転送されるメッセージを、メールボックスサーバーに保管しておくために使用します。

**ファイルシステム
ゲートウェイ**

ファイルシステム上の指定されたフォルダに対してメッセージをルーティングするソフトウェア。また、ファイルシステムゲートウェイを使用して、Gentran:Server でメッセージが正しく処理されているかどうかをテストすることもできます。

フィルタ

メッセージの表示基準を設定するためのメールボックスサーバー機能。

フィルタ ブラウザ

選択したメッセージの [インボックス]、[アウトボックス]、または [ごみ箱] コンテナに事前に定義した基準に一致するメッセージが表示されるブラウザ。

(次のページへ続く)

メールボックス

メールボックスには、メール受信者間で転送されるメッセージが格納されます。手紙を入れる郵便ポストのように、メッセージは宛先のアドレスへ転送されるまでメールボックスの中に保管されます。

Gentran:Server メールボックスには、次の 2 種類があります。

- ▶ 非ゲートウェイ メールボックス
- ▶ ゲートウェイ メールボックス

関連項目

ゲートウェイ メールボックス、非ゲートウェイ メールボックス

メールボックス サーバー システム

トレーディング パートナーとの間でメッセージを転送するために使用するコミュニケーションズ システム。このシステムでは、さまざまなコミュニケーションズ プロトコルを使用してメッセージを転送できます。

メールボックス サーバー マネージャ

メールボックス サーバーのシステム動作の日常的な管理および保守を行うためのツール。このツールで、メールボックス サーバー、メールボックス、ゲートウェイなどのメールボックス コンポーネントを追加および削除できます。

メールボックス サーバー システムは、以下のコンポーネントから構成されています。

- ▶ メールボックス
- ▶ 配布先リスト
- ▶ デリバリエージェント
- ▶ ゲートウェイ

関連項目

デリバリエージェント、配送先リスト、ゲートウェイ、メールボックス

(次のページへ続く)

メッセージ

E メール、音声メール、または簡単なテキスト メッセージなどの情報全般を指す用語。メールボックス サーバーで転送されるメッセージは、ビジネスドキュメントのデータなどを含む特殊なメッセージです。各メッセージには、次のプロパティが設定されています。

- ▶ [メッセージ ID]— 各メッセージを一意に識別するための ID です。
- ▶ [Src ID]— メッセージを送信したメールボックスに割り当てられているメッセージ ID のリストです。
- ▶ [件名]— メッセージの内容の概要を示します。
- ▶ [コンテンツ タイプ]と[コンテンツ サブタイプ]— メッセージまたは添付に含まれる情報の種類を示します。
- ▶ [送信元]— 作成者を示します。
- ▶ [受信者]— 受信者を示します。
- ▶ [状態]— メールボックス サーバーにおけるメッセージと添付の処理の進捗状況を示します。
- ▶ [メッセージ ボディ]— メッセージの内容が収められます。通常は、プレーンテキスト形式で表示されます。
- ▶ [添付]— 追加のテキストやバイナリ データ エレメント (ビジネスドキュメントに含まれるデータなど) が収められます。

関連項目

メールボックス、ゲートウェイ メールボックス